YAMAHA

J

デジタルサウンドプロジェクター

YSP-1600

取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
■製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに保管してください。
■保証書に「購入日、製品名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

ご使用前に本書の「安全上のご注意」（75 ～ 78 ページ）を必ずお読みください。

保証書別添付

MusicCast

もくじ

付属品の確認 4
リモコンの準備 4

本機の特長 5

本機でできること 5
便利なアプリで使いこなす 6
各部の名称とはたらき 7

準備する 11

再生までの基本的な流れ 11
1 設置する 12
アンテナを立てる 13
本機を壁に取り付ける 14
2 テレビを接続する 15
3 再生機器を接続する 16
4 その他の接続 17
外部サブウーファー 17
ネットワーク（有線） 17
5 電源コードを接続する 17
6 はじめて使うときの設定 18
メニュー画面をテレビに表示する 18
設置した位置に合わせてサラウンド効果を設定する（ポジション設定） 19
テレビのリモコンで本機を操作する（HDMI コントロール機能） 20

再生する 22

再生の基本手順 22
お好みのサウンドを楽しむ 23
サラウンド効果を選ぶ 23
2 チャンネルで再生する（ステレオ再生） 23
各チャンネルの音量を調整する 24
音声情報を確認する 24
便利な機能を使う 25
人の声を明瞭に再生する（クリアボイス） 25
二カ国語放送の音声を切り替える 25
Bluetooth を使ってワイヤレス再生する 26
Bluetooth 機器の音楽を聴く（受信） 27
Bluetooth スピーカーやヘッドホンで楽しむ（送信） 29
Bluetooth 接続を切断する 30

ネットワークを活用する 31

ネットワークに接続する 31
有線ネットワークの接続 31
無線ネットワーク 32
無線ネットワークに接続する 32
モバイル端末を本機に直接接続する（ワイヤレスダイレクト） 40
パソコン（サーバー）の音楽ファイルを聴く 42
メディアの共有設定を行う 42
音楽ファイルを再生する 42
インターネットラジオを聴く 43
インターネットラジオ局を選ぶ 43
お気に入りのインターネットラジオ局を登録する 43
radiko.jp を聴く 44
放送局名から選局する 44
AirPlay で音楽を聴く 45
iTunes/iPod で曲を再生する 45
モバイル端末の音楽を聴く 47
モバイル端末で曲を再生する 47

設定する 48

設定メニュー 48
操作手順 48
設定メニューリスト 49
サウンド 50
HDMI 51
ファンクション 52
情報表示 53
ネットワーク 54
Bluetooth 57
本機経由でテレビを操作する（テレビリモコンリピーター機能） 58
本機のファームウェアを更新する 59
設定メニューの「ネットワークアップデート」から更新する 59
USB メモリを本機に接続して更新する 60
本機の設定を初期化する 61
本機の基本設定（ネットワーク関連以外）を初期化する 61
ネットワーク関連の設定を初期化する 61

付録 62

故障かな？と思ったら 62
全般 62
Bluetooth 64
リモコン 65
ネットワーク 66
サラウンド感が得られないときは 68
YRB-100 設置のポイント 68
サラウンドの基礎知識 69
サラウンドとは？ 69
デジタルサウンドプロジェクターとは？ 69
ヤマハの音声技術 69
用語 / 技術解説 70
音声 / 映像に関する用語 70
ネットワークに関する用語 70
主な仕様 71
対応する信号 72
安全上のご注意 75
索引 79

本書の記載について

- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- では、知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- では、使用上の注意点や機能上の制約を記載しています。

付属品の確認

ご使用になる前に、付属品がすべてそろっていることを確認してください。

YSP-1600

本体

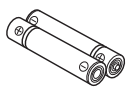


付属品

リモコン



単 4 乾電池（2 本）



光ファイバーケーブル（1.5m）

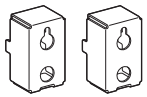


壁掛け用

テンプレート



取付け金具（2 個）



ネジ　M4×12mm（4 本）



取扱説明書（本書）



簡易接続・操作ガイド



MusicCast セットアップガイド



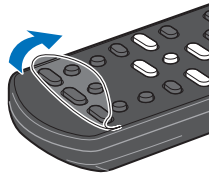
- 付属のケーブルは、接続方法によって使用しない場合があります。

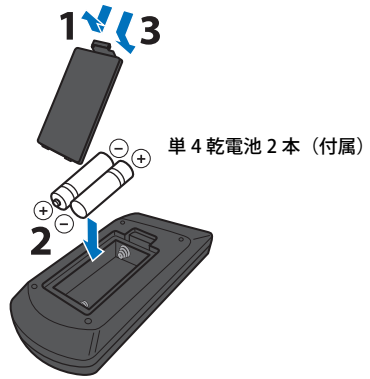
リモコンの準備

電池を入れる前やリモコンを使う前に、「安全上のご注意」の「電池」（76 ページ）および「リモコン」（78 ページ）をよくお読みください。

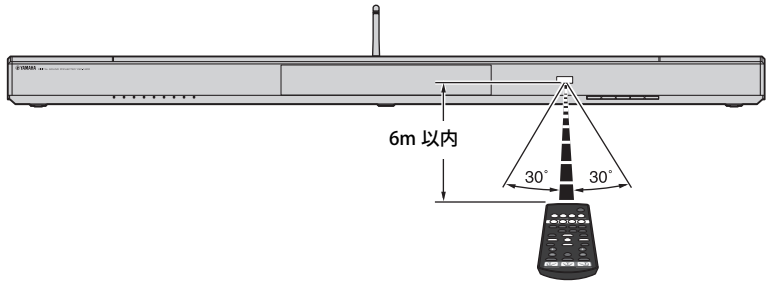
電池を入れる

保護シートははがしてお使いください。





操作範囲



本機の特長

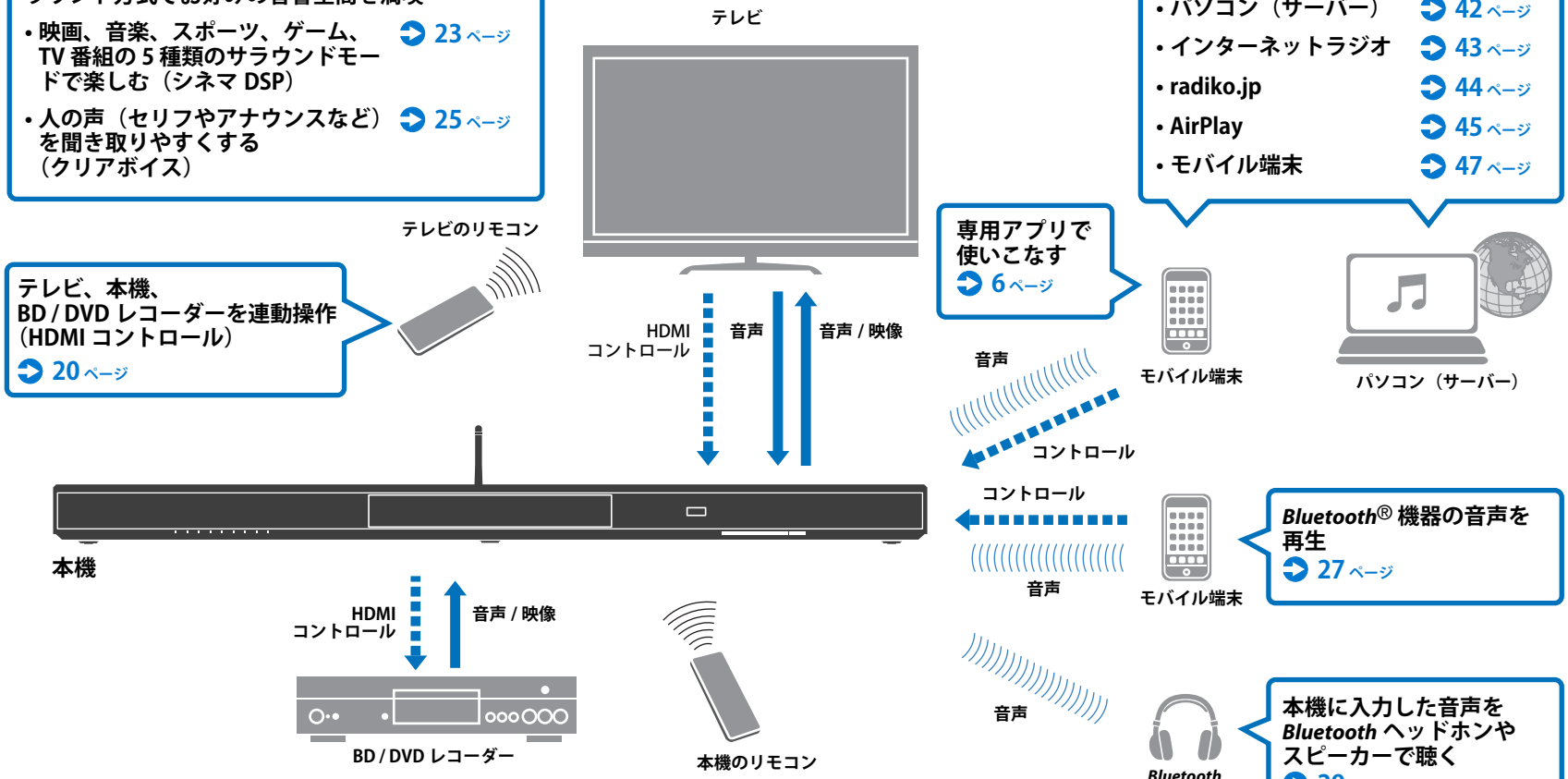
本機でできること

音のビームを壁面に反射させる、独自のリアルサラウンド方式でお好みの音響空間を満喫

- 映画、音楽、スポーツ、ゲーム、TV 番組の 5 種類のサラウンドモードで楽しむ（シネマ DSP） 23 ページ
- 人の声（セリフやアナウンスなど）を聞き取りやすくする（クリアボイス） 25 ページ

豊富な対応コンテンツ

- パソコン（サーバー） 42 ページ
- インターネットラジオ 43 ページ
- radiko.jp 44 ページ
- AirPlay 45 ページ
- モバイル端末 47 ページ



便利なアプリで使いこなす

専用の無料アプリ「MusicCast CONTROLLER」や「HOME THEATER CONTROLLER (WLAN)」をスマートフォンなどのモバイル端末にインストールすると、本機の操作 / 設定やストリーミングサービスの再生などをモバイル端末から操作できます。詳しくは、App Store または Google Play で「MusicCast CONTROLLER」や「HOME THEATER CONTROLLER (WLAN)」を検索してください。

MusicCast CONTROLLER

コンテンツ配信、ストリーミングサービスの再生などができます。

MusicCast CONTROLLER を使ってできること

- パソコン（サーバー）の曲を再生する
- インターネットラジオ局を選ぶ
- radiko.jp の放送局を選ぶ
- モバイル端末の音楽を聴く
- 本機とヤマハ製ネットワーク対応 AV 機器のあいだで音声を配信 / 受信する
  詳しくは、付属の「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。

HOME THEATER CONTROLLER (WLAN)

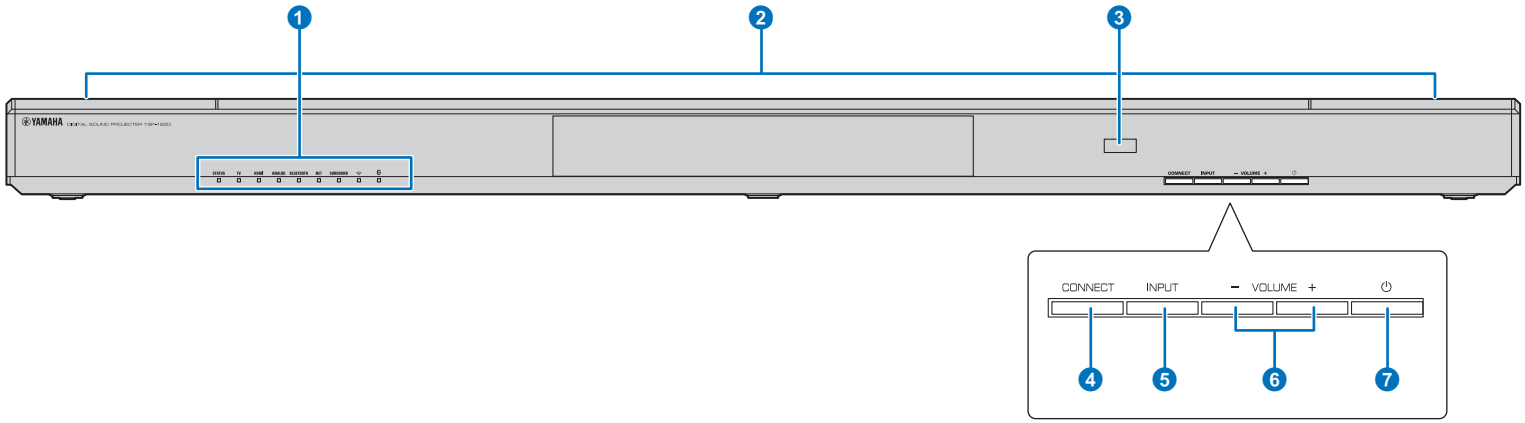
音声ビームなどの詳細な設定ができます。



- **本書では、iOS および Android 携帯端末を総称して、「モバイル端末」と表記しています。必要な場合は、説明文中で携帯端末の種類を特定しています。**

各部の名称とはたらき

本体（前面）



❶ インジケーター

本機の状態を表示します（8 ページ）。操作から 5 秒経過すると自動的に暗くなります。

- インジケーターの明るさは、設定メニューの「ディマー」で調節できます（52 ページ）。

❷ 内蔵サブウーファー

サブウーファーは本機の上部に内蔵されています。

❸ リモコン受光部

本機のリモコンの赤外線信号を受信します（10 ページ）。
テレビリモコンリピーター機能が有効な場合は、テレビリモコンの赤外線信号を受信します（58 ページ）。

❹ CONNECT（コネクト）キー

モバイル端末専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」を利用するときに使います。詳しくは付属の「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。

❺ INPUT（インプット）キー

再生する音声ソースを選択します（22 ページ）。

❻ VOLUME（ボリューム）（+/–）キー

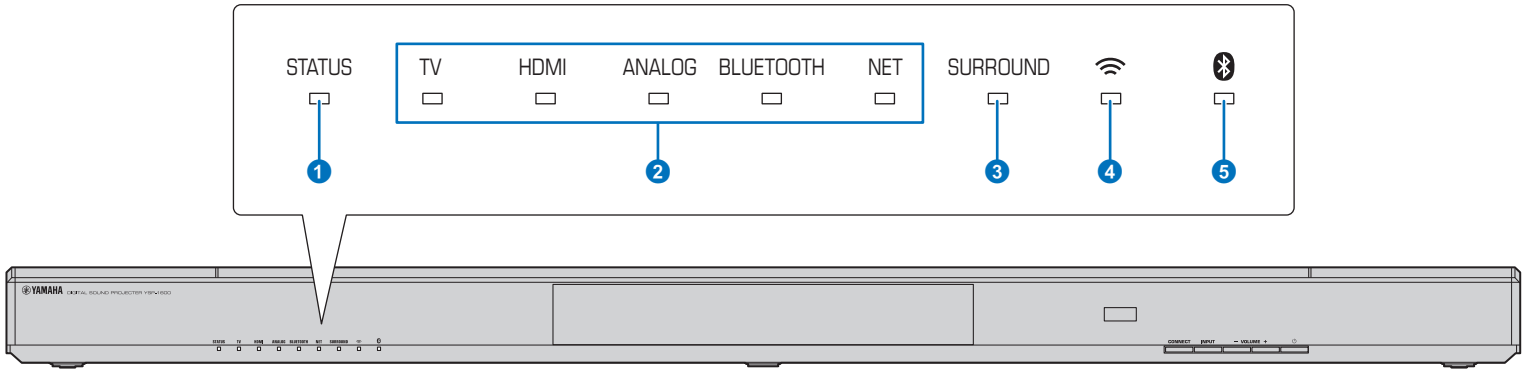
音量を調節します（22 ページ）。

❼ ⏻（電源）キー

電源のオン / オフを切り替えます。

- 本機はオフのときも、HDMI 信号を検知したり、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費しています。

インジケーター



1 STATUS（ステータス）インジケーター

本機の電源の状態を表示します。

STATUS 点灯（緑）：電源オン

STATUS 点灯（赤）：電源オフ（HDMI コントロールまたはネットワークスタンバイが有効なとき）

STATUS 消灯：電源オフ

2 音声入力インジケーター

選択した音声ソースのインジケーターが点灯します。

例：TV 選択時 TV HDMI ANALOG BLUETOOTH NET

点灯	再生する音声
TV	テレビの音声
HDMI	HDMI 入力端子に接続した機器の音声
ANALOG	アナログ入力端子に接続した機器の音声
BLUETOOTH	*Bluetooth* 機器の音声
NET	ネットワーク経由の音声

3 SURROUND（サラウンド）インジケーター

サラウンド再生にすると点灯し、ステレオ再生にすると消灯します。

SURROUND リモコンの映画 / 音楽 / スポーツ / ゲーム /TV 番組キーを押すと点灯（サラウンド再生）

SURROUND リモコンのステレオキーを押すと消灯（ステレオ再生）

4 インジケーター

無線ネットワークに接続すると点灯し、切断すると消灯します（32 ページ）。

5 *Bluetooth* インジケーター

Bluetooth 機器と接続すると青色で点灯し、切断すると消灯します（26 ページ）。

その他の表示

1 ～ 5 以外の操作や設定状況も前面のインジケーターの点灯 / 点滅で示します。

本書では、ランプ 9 個が並んだイラストを使って説明しています。

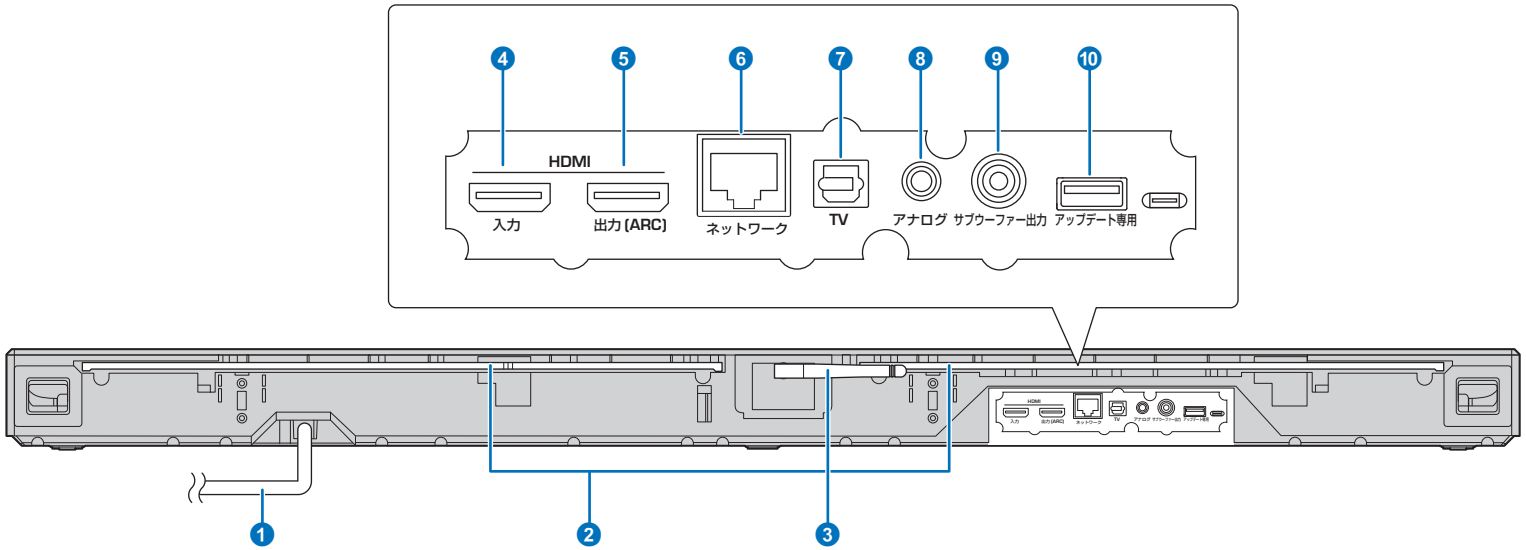
：消灯

：点灯

：点滅

例：STATUS ランプが点滅し、TV ランプが点灯する場合

本体（背面）



1 電源コード
電源コードのプラグをコンセントに接続します（17 ページ）。

2 テレビリモコンリピーター
リモコン受光部で受信したリモコン信号をテレビに送信します（58 ページ）。

3 アンテナ
設置したあとで、アンテナを立てます（13 ページ）。

4 HDMI 入力端子
BD（ブルーレイディスク）/ DVD レコーダーや衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機など、HDMI 対応の再生機器を接続します（16 ページ）。

5 HDMI 出力（ARC）端子
HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像 / 音声を出力します（15 ページ）。

6 ネットワーク端子
本機をネットワークに接続します（17 ページ）。

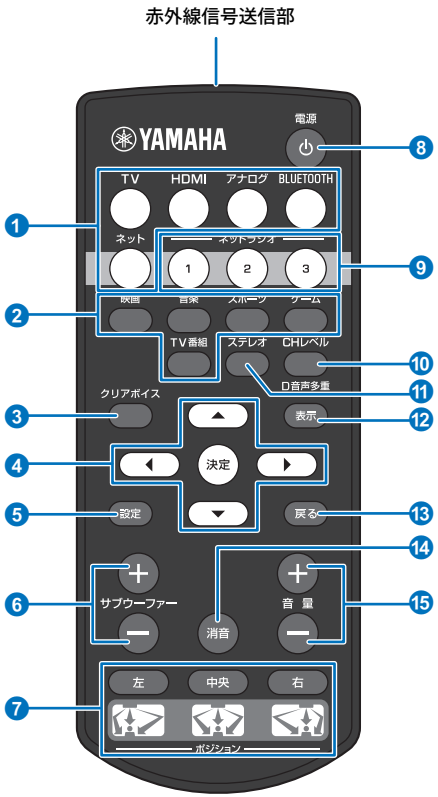
7 TV 端子（光デジタル入力）
光デジタル音声出力端子を持つ再生機器を接続します（15 ページ）。

8 アナログ入力端子
アナログ音声用 3.5mm ステレオピンプラグケーブルを使って再生機器を接続します（16 ページ）。

9 サブウーファー出力端子
外部サブウーファーを接続します（17 ページ）。

10 アップデート専用端子
本機のファームウェアをアップデートするときに使います（60 ページ）。

リモコン



❶ 入力選択キー

再生する音声ソースを選びます（22 ページ）。

TV キー	テレビ
HDMI キー	HDMI 入力端子に接続した機器
アナログキー	アナログ入力端子に接続した機器
BLUETOOTH キー	*Bluetooth* 機器
ネットキー	前回入力したネットワーク経由の音声

❷ サラウンドモードキー

映画 / 音楽 / スポーツ / ゲーム /TV 番組のサラウンド再生に切り替えます（23 ページ）。

❸ クリアボイスキー

クリアボイスのオン / オフを切り替えます（25 ページ）。

❹ ▲ / ▼ / ◀ / ▶ キー、決定キー

設定を変更します（48 ページ）。

❺ 設定キー

設定メニューに入ります（48 ページ）。

❻ サブウーファー（＋ / －）キー

サブウーファーの音量を調節します（22 ページ）。

❼ ポジション（左、中央、右）キー

最適なサラウンド音で再生するため、本機を設置した位置を選択します（19 ページ）。

❽ 電源（⏻）キー

電源のオン / オフを切り替えます（22 ページ）。

❾ ネットラジオ（1 ～ 3）キー

インターネットラジオ局などのストリーミングサービスを登録 / 再生します（43 ページ）。

❿ CH レベルキー・D 音声多重キー

- CH レベルキー：再生中に音量バランスを調節します（24 ページ）。
- D 音声多重キー：BS / 地上デジタル放送のモノラル多重音声入力時に主 / 副 / 主＋副音声を切り換えます（25 ページ）。

⓫ ステレオキー

ステレオ再生に切り替えます（23 ページ）。

⓬ 表示キー

再生している音声の情報を前面のインジケーターで示します（24 ページ）。

⓭ 戻るキー

ひとつ手前のメニュー表示に戻します。

⓮ 消音キー

一時的に消音します（22 ページ）。

⓯ 音量（＋ / －）キー

音量を調節します（22 ページ）。

準備する

再生までの基本的な流れ

1	設置する（12 ページ）	サラウンド効果を得られる位置に本機を設置します。壁に取り付けることもできます。 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に接続してネットワークを利用する場合の準備として、アンテナを立てます。
2	テレビを接続する（15 ページ）	テレビを本機に接続します。
3	再生機器を接続する（16 ページ）	ビデオ機器（BD/DVD レコーダーなど）を本機に接続します。
4	その他の接続（17 ページ）	外部サブウーファーを接続します。 有線接続してネットワークを利用する場合の準備として、ルーターと本機をネットワークケーブルで接続します。
5	電源コードを接続する（17 ページ）	すべての接続が完了したら、電源コードのプラグをコンセントに接続します。
6	はじめて使うときの設定（18 ページ）	設置位置に合わせてサラウンド効果を設定するなど、再生の前に本機を設定しておきます。

これで使用前に必要な接続および設定は完了です。映画、音楽など、本機での再生を存分にお楽しみください！

- ネットワークへの接続や、ネットワーク経由の音声の再生については、「ネットワークを活用する」（31 ページ）をご覧ください。

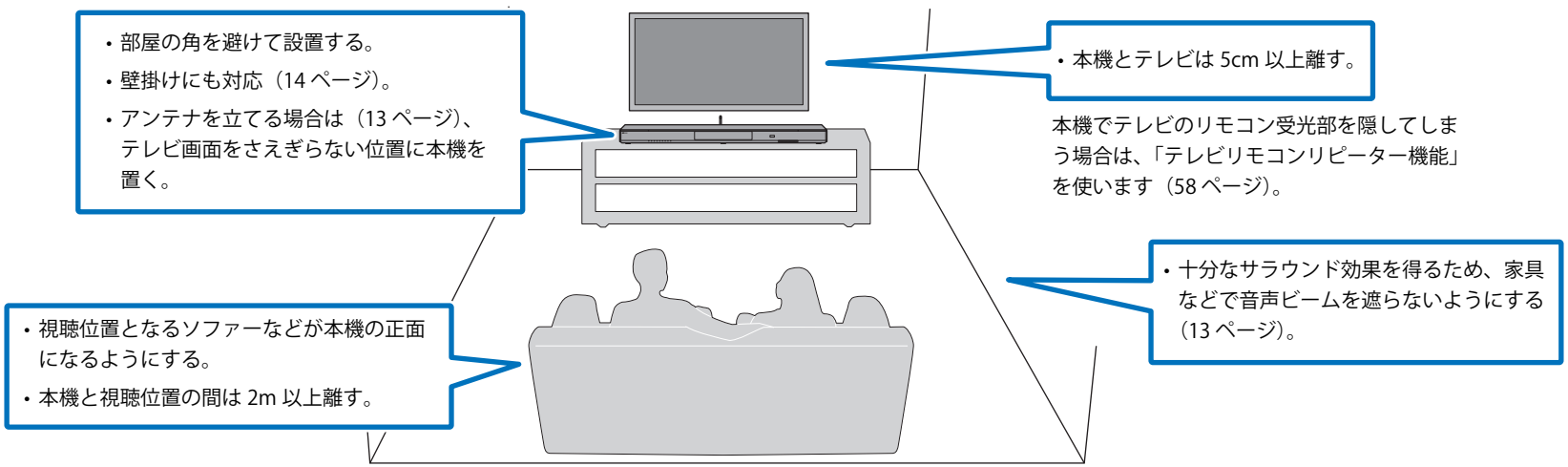
1 設置する

本機をテレビ台の上などに設置します。背面のスペースが狭いラックなど、設置する場所によっては、先に外部機器と接続してから設置するほうが簡単な場合があります。外部機器との接続については、15 ～ 17 ページをご覧ください。

ご注意

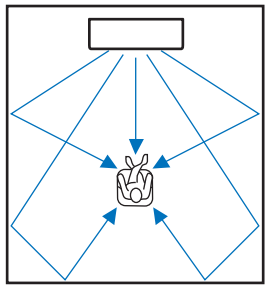
- 地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように安定した広い台の上に設置してください。
- 本機は非防磁のスピーカーを搭載しています。ハードディスクドライブなどを近くに設置しないでください。
- 本機を他の再生機器などと直接重ねないでください。熱や振動により機器が故障することがあります。

おすすめの設置方法



❑ 本機の設置位置とサラウンド効果

本機は壁の反射を利用してサラウンド効果を創り出します。



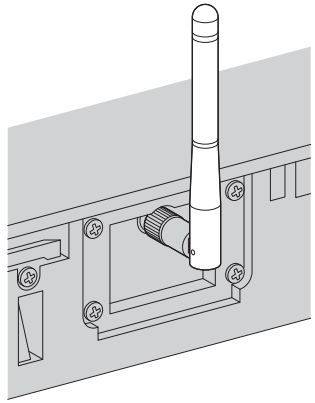
本機の特性上、以下のような環境では十分なサラウンド効果を得られない場合があります。

- 家具などでビームが遮られる。
- 部屋の大きさが幅 3m~7m、奥行き 3m~7m、高さ 2m ～ 3.5m に当てはまらない。
- 視聴位置が本機に近すぎる。
- 本機の位置が左右の壁面に近すぎる。
- 部屋の角に設置している。
- ビームの経路上に反射に適した壁面がない。

- 設置した位置に合わせて本機のポジション設定をすることで、最適なサウンドをお楽しみいただけます。詳しくは、「設置した位置に合わせてサラウンド効果を設定する（ポジション設定）」（19 ページ）をご覧ください。

アンテナを立てる

無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に接続してネットワークを利用する場合は、本機背面のアンテナを立てます。



アンテナの根元を
押さえながら垂直に立てる

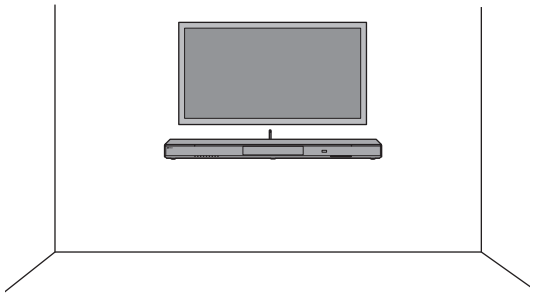
- アンテナに極端な力を加えないでください。破損するおそれがあります。
- 可動部分の向きを確認して、正しい方向に曲げてください。
- アンテナを取りはずさないでください。

- 無線ネットワークについては、32 ページをご覧ください。

本機を壁に取り付ける

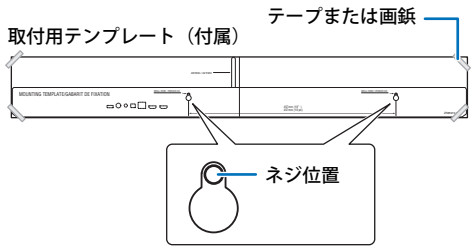
本機は壁に設置できます。

アンテナを使う場合は（13 ページ）、本機を壁に取り付ける前に立ててください。

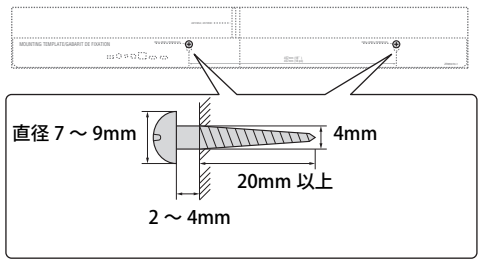


- 取付工事は専門業者、または販売店に依頼してください。お客様自身で作業しないでください。設置方法を間違えると、本機が落下し、けがの原因になります。
- しっくいやベニヤ板のような弱い材質の壁には設置しないでください。本体が落下する原因になります。
- 市販のネジは、規定サイズ（手順 2 参照）で十分な強度があるものをご用意ください。くぎや両面テープ、規定サイズ以外のネジを使用すると本体が落下する原因になります。
- ケーブル類は必ず固定してください。誤って手や足に引っ掛かると、本機が落下する原因になります。
- 設置後、本機がしっかりと固定されていることを確認してください。誤った設置により起きた事故について、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本機にもたれかかったり、上から強い力をかけたりしないでください。落下の原因となります。

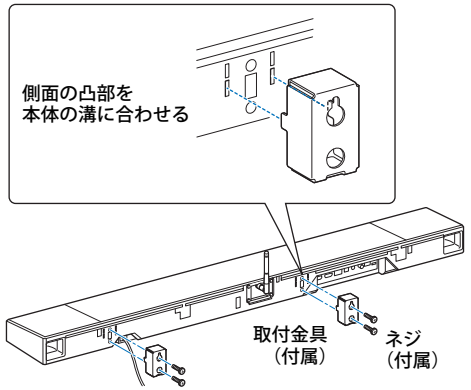
1 取付用テンプレートを壁に仮付けし、ネジ位置の印をつける。



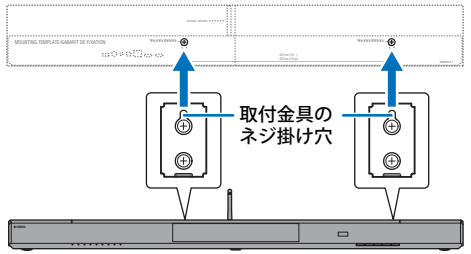
2 取付用テンプレートを壁から取り外し、壁（印の位置）に市販のネジを取り付ける。



3 取付金具をネジ留めする。



4 本機を壁のネジに掛けて設置する。



2 テレビを接続する

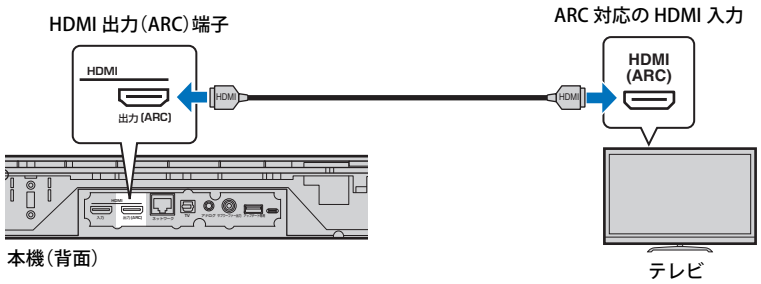
テレビと本機を接続して、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビ番組の音声を本機で楽しむこともできます。

- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- 3D 映像、4K 映像をお楽しみになる場合は、ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。

オーディオリターンチャンネル（ARC）対応テレビの場合

市販の HDMI ケーブルを使って、テレビを本機に接続します。

- 本機は著作権保護技術 HDCP2.2 に対応しています。4K 映像をお楽しみになる場合は、HDCP2.2 対応テレビの HDMI 入力端子（HDCP2.2 対応の端子）に接続してください。



オーディオリターンチャンネル（ARC）対応のテレビを使用する場合は、HDMI コントロール機能をオンにしてください（51 ページ）。

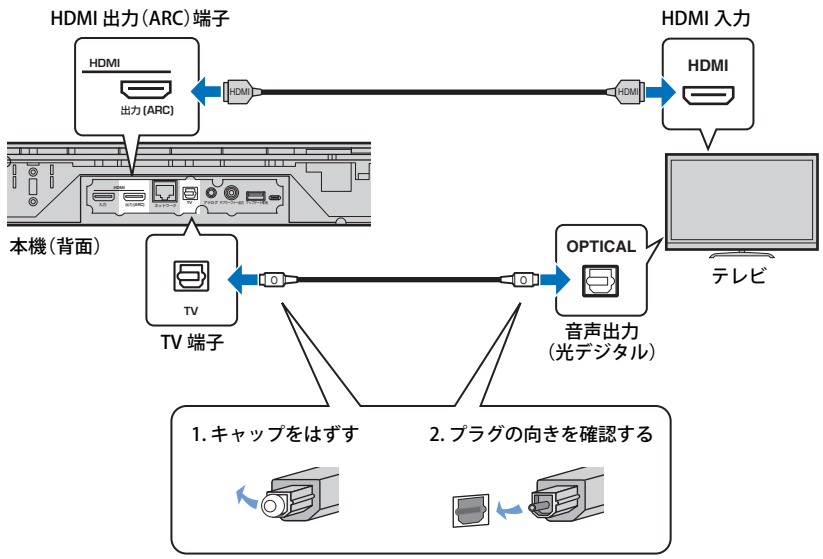
オーディオリターンチャンネル（ARC）とは

1 本の HDMI ケーブルで双方向の音声信号伝送が可能になります。テレビが ARC に対応している場合、本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。

- ARC 対応の HDMI ケーブルをお使いください。

オーディオリターンチャンネル(ARC)非対応のテレビの場合

市販の HDMI ケーブルと付属の光ファイバーケーブルを使って、テレビを本機に接続します。



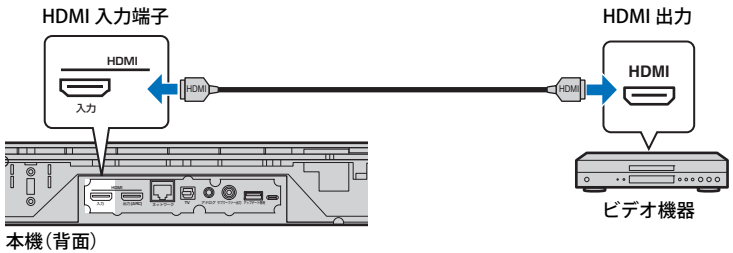
- **テレビに光デジタル端子がない場合**
  テレビの音声出力と本機のアナログ入力端子を 3.5mm ステレオミニプラグケーブルで接続してください。アナログキーで入力をアナログに切り替えると、テレビの音声が本機から聞こえます。

3 再生機器を接続する

BD / DVD レコーダー、衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機などのビデオ機器を本機に接続します。接続するビデオ機器の出力端子（映像 / 音声）により、接続方法を選んでください。ビデオ機器に HDMI 出力端子がある場合は、HDMI 接続をおすすめします。

HDMI 接続

市販の HDMI ケーブルを使って、ビデオ機器を本機に接続します。

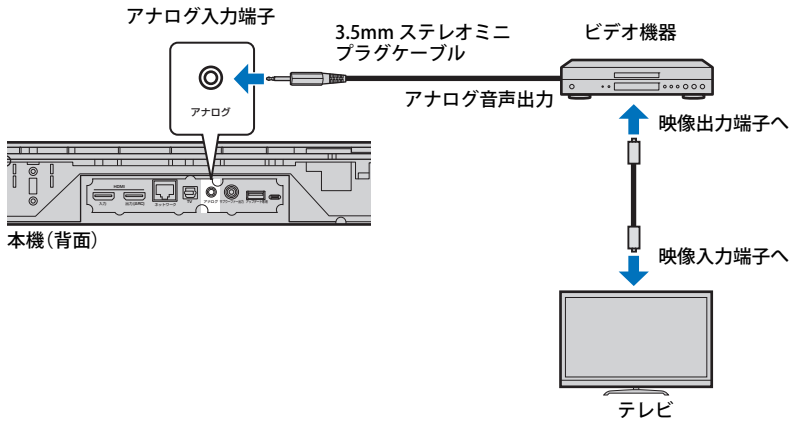


HDMI キーで入力を HDMI に切り替えると、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

- HDMI コントロール機能をオンにすると（20 ページ）、本機の電源がオフのときでもテレビで再生機器の映像や音声を再生できます（HDMI 信号パススルー）。
- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- 3D 映像、4K 映像をお楽しみになる場合は、ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。
- ビデオ機器に HDCP2.2 対応の HDMI 出力端子がある場合は、その端子と接続してください。
- ビデオ機器の音声を HDMI 入力ではなく、TV 端子（光デジタル）から入力できます。ビデオ機器の光デジタル出力端子と本機の TV 端子を光ファイバーケーブルで接続してください。このように接続した場合は、設定メニューの「HDMI」→「音声入力端子」を「光デジタル」に変更してください。

アナログ接続

市販の 3.5mm ステレオミニプラグケーブルを使ってビデオ機器を本機に接続し、ビデオ機器の映像出力とテレビの映像入力を接続します。

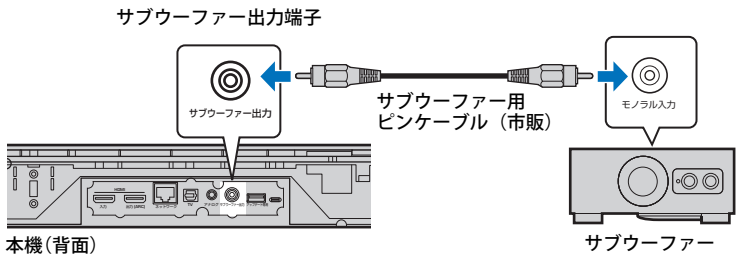


アナログキーで入力をアナログに切り替えると、ビデオ機器の音声が本機から出力されます。

4 その他の接続

外部サブウーファー

本機はサブウーファーを内蔵していますが、さらに低音を強化したい場合など、外部サブウーファーを使用することもできます。サブウーファーを本機のサブウーファー出力端子に接続します。



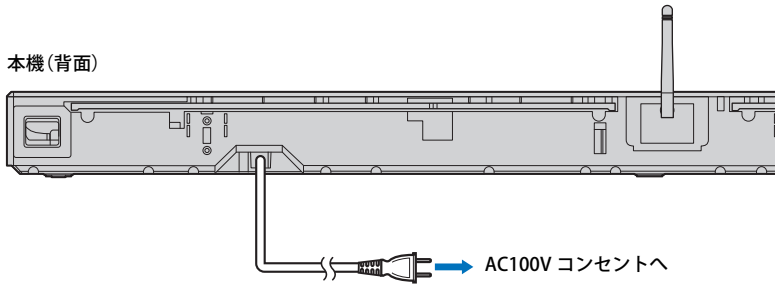
- 外部サブウーファーは、アンプが内蔵されているタイプのものをご使用ください。

ネットワーク（有線）

本機を有線でルーターに接続する場合は、ネットワークケーブルを本機のネットワーク端子に接続します。詳しくは、「有線ネットワークの接続」（31 ページ）をご覧ください。

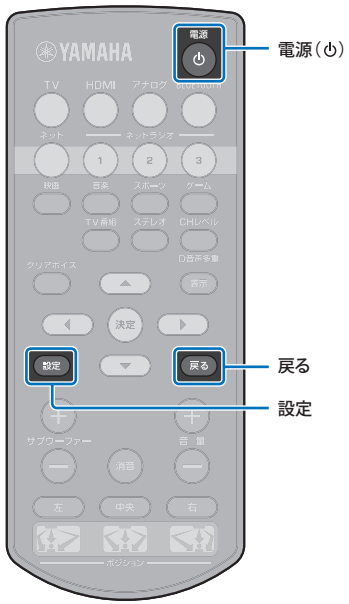
5 電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。



6 はじめて使うときの設定

メニュー画面をテレビに表示する



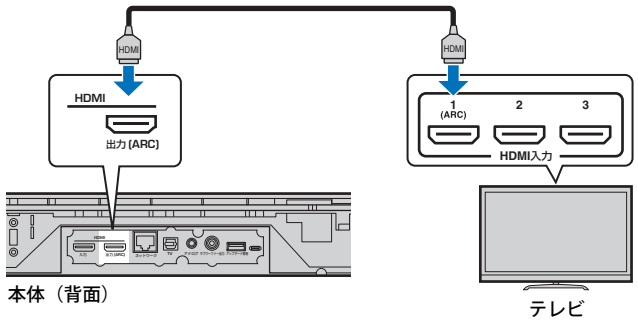
メニュー画面などをテレビに表示することで、視覚的に操作を進められます。

本機とテレビの電源をオンにし、テレビのリモコンの入力切換ボタンで本機からの入力にしてください。

本機とテレビを下図のように接続したときは、入力切換ボタンで「HDMI 1」を選びます。

テレビのリモコン（例）

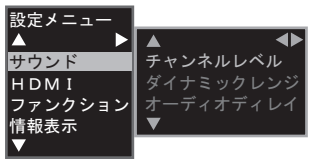




本体（背面）　テレビ

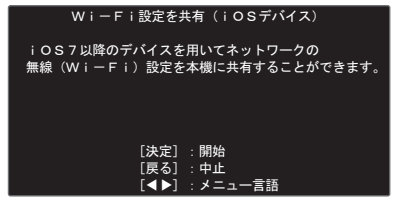
メニュー表示を確認する

設定キーを押すと、設定メニューがテレビに表示されます。HDMIの入力信号があるときは、映像の上にメニューが表示されます。設定キーを 2 回押すと、メニューが終了します。



電源をオンにしたあとの画面について

ご購入後はじめて本機の電源をオンにすると以下の画面がテレビに表示され、前面の Wi-Fi インジケーターがゆっくり点滅します。





ゆっくり点滅

お使いの iOS デバイス（iPhone など）の簡単な操作で、本機を無線ネットワークに接続できます。「簡単接続・操作ガイド」をご覧ください。

この機能を使わない場合は戻るキーを押してください。

- 設定メニューの「Wi-Fi 設定を共有（iOS デバイス）」を使っていつでも接続できますが、すでにほかの無線ネットワークや *Bluetooth* 機器が設定されている場合は初期化されますのでご注意ください。

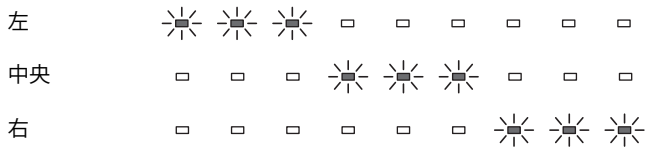
- 本機のネットワーク端子とルーターを接続している場合（有線ネットワーク接続）、この画面は表示されず、Wi-Fi インジケーターも点滅しません。

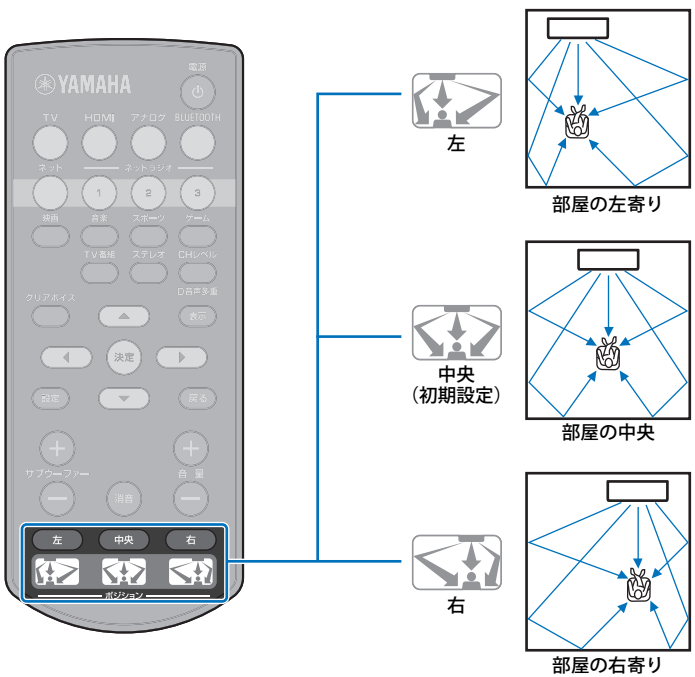
設置した位置に合わせてサラウンド効果を設定する（ポジション設定）

本機は以下のように音のビームを壁に反射させることによって、サラウンド効果を創り出します。十分なサラウンド効果を得るために、本機を設置した位置に合わせて ポジション設定してください。

1 本機を設置した位置に合ったポジションキーを 3 秒以上押し続ける。

設定した位置に応じて本機前面のインジケーターが点滅します。



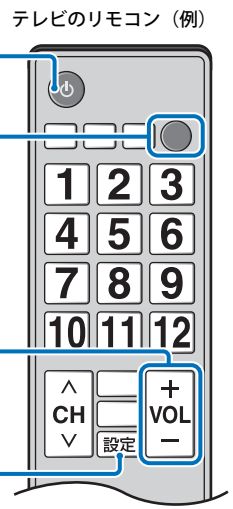


テレビのリモコンで本機を操作する（HDMI コントロール機能）

HDMI コントロール機能とは

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます（HDMI コントロール）。また HDMI ケーブルで接続した再生機器（HDMI コントロール対応の BD / DVD レコーダーなど）も操作できます。

テレビのリモコン操作による連動機能



まず、テレビのリモコンで上記の操作を試してください。本機を操作できる場合は、そのままお使いください。また、HDMI コントロール機能をオンにするだけで本機能を使用できる HDMI 機器もあります。操作できない場合は、HDMI コントロールに関する設定をしてください（21 ページ）。

このほか一部のテレビでは以下の機能を操作できます。

- デジタル放送のジャンル情報に合わせて最適なサラウンドモード（23 ページ）を自動的に選択（おまかせサラウンド機能）。
- デジタル音声多重の切り替え
- テレビに表示される本機のメニュー操作

- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビでも、一部機能が操作できないものがあります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- テレビおよびレコーダーなどの機器は、同一メーカーの製品で統一することをおすすめします。
- 対応するテレビやレコーダーなどの機器については、下記 WEB サイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

おまかせサラウンド機能

- この機能は、デジタル放送に組み込まれた番組情報のジャンル情報をもとにサラウンドモード（23 ページ）を切り替えます。テレビ放送や、テレビの録画機能を使って録画した番組を再生するときに有効に動作します。ほかの番組に移行したり、チャンネルを切り替えたりしたときは、選択した番組に応じてプログラムが切り替わります。
- おまかせサラウンド機能を使うには、対応するテレビと本機を HDMI ケーブルで接続し、HDMI コントロール機能をオンにしてください（51 ページ）。また、テレビの設定を AV システムと連動するように変更する必要があります。設定はお使いのテレビにより異なります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 対応するテレビについては下記 WEB サイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/omakase_surround/



HDMI コントロール機能の設定

1 本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。

2 本機、テレビ、HDMI コントロール対応の再生機器（BD / DVD レコーダーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。

本機の「HDMI コントロール」が「オン」（初期設定）に設定されていることを確認します（51 ページ）。

再生機器については、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。

4 本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。

5 テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。

6 HDMI キーを押して本機の入力を HDMI に切り替え、再生機器の画像が正しく映るか確認する。

HDMI
点灯（緑）

7 テレビのリモコンを使って電源オフ、音量調節などを操作して、本機が連動するか確認する。

連動機能が動作しないときは

以下のように正しく接続や設定しているか、ご確認ください。

– 「HDMI コントロール」（51 ページ）が「オン」に設定されている

– テレビ側の設定で HDMI コントロール機能が有効になっている

テレビの設定の例

- 設定メニューから「リンク設定」→「HDMI 連動設定」（例）を選択し、「HDMI 連動機能」などの項目を「連動する（使用する）」に設定してください。
- テレビの音声出力先の設定を、テレビ以外に設定してください。

それでも連動機能が動作しない場合は、

– 本機およびテレビの電源を一度オフにしてからオンにしてください。

– 本機および HDMI 接続している機器の電源プラグをコンセントからはずし、30 秒ほど経ってから、接続し直してください。

– アナログを入力したあとで正しく動作しなくなった場合は、もう一度「HDMI コントロール機能の設定」の手順 5、6 を行ってください。

接続方法や接続機器を変更する

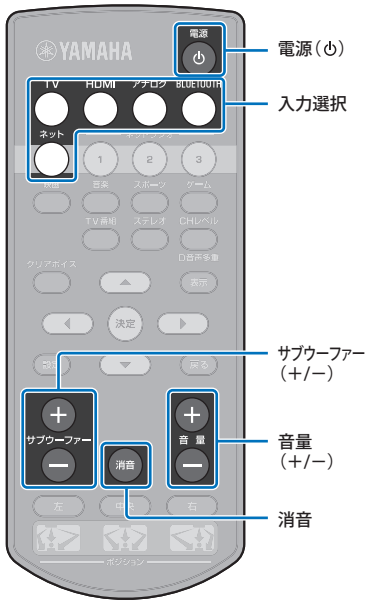
接続する機器や端子を変更した場合は以下の手順で再設定してください。

1 テレビやレコーダーの HDMI コントロール機能をオフにしてから、すべての機器の電源をオフにし、接続を変更する。

2 「HDMI コントロール機能の設定」の手順 1 ～ 7 を再度操作する。

再生する

再生の基本手順



1 電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオンにする。

2 本機に接続した機器（テレビ、BD / DVD レコーダー、ゲーム機など）の電源をオンにする。

3 再生機器の接続に合わせて入力選択キーを押し、視聴する機器の入力を選ぶ。

HDMI 入力端子に接続した BD / DVD レコーダーを再生する場合は、HDMI キーを押します。

前面のインジケーター　HDMI　点灯

Bluetooth 機器の再生については 26 ページ、ネットワーク経由の音声の再生については 42 ～ 47 ページをご覧ください。

4 手順 3 で選んだ機器を再生する。

- テレビに接続した再生機器の音声や映像を視聴する場合は，テレビ側の入力切換で再生機器を選んでください。

5 音量を調節するには、音量（＋ / －）キーを押す。
サブウーファーの音量を調節するには、サブウーファー（＋ / －）キーを押す。

音量調節中は、前面のインジケーターで音量を示します。

音量表示
音量を上げると点灯するインジケーターが増え、下げると減ります。

音量が下がる（−）⟷ 音量が上がる（+）

サブウーファーの音量表示
音量を上げるとインジケーターの点灯が右に移動し、下げると左に移動します。

音量が下がる（−）⟷ 音量が上がる（+）

- テレビのスピーカーと本機の両方から音声が出力されている場合は、テレビを消音にしてください。
- HDMI 入力音声をテレビから出力している場合は、リモコンの音量（＋ / －）キーや消音キーを押しても音量は変化しません。

消音する

一時的に消音にするには、リモコンの消音キーを押します。

消音を解除するにはもう一度消音キーを押すか音量（＋ / －）キーを押します。

- サブウーファーの音量は、全体の音量とは独立して設定できます。
- 夜はサブウーファーの音量を小さくするなどしてお楽しみいただくことをおすすめします。

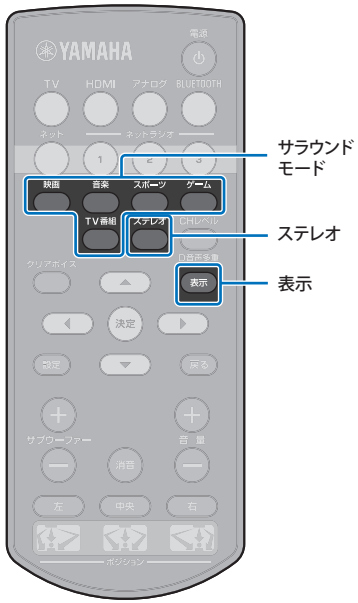
6 サラウンド再生、ステレオ再生などを選び、お好みのサウンドに設定する（23 ページ）。

使用後は、電源（⏻）キーを押し、本機の電源をオフにする。

お好みのサウンドを楽しむ

サラウンド効果を選ぶ

サラウンドモードを選ぶと、映画やコンサート、スポーツ中継などジャンルに合わせた最適な音声をヤマハの音場創生技術、「シネマ DSP」により、臨場感のあるサラウンド音響で楽しめます。再生するソースに合わせて、映画、音楽、スポーツ、ゲーム、TV 番組の 5 つのサラウンドモードから選ぶことができます。



1 サラウンドモードキー（映画 / 音楽 / スポーツ / ゲーム / TV 番組のいずれか）を押す。

前面のインジケーター　SURROUND 点灯

サラウンドモードについて

各サラウンドモードの特長は以下のとおりです。

再生ソースやご自分の好みに合ったサラウンドモードを選んでください。

音場プログラム	特長
映画	映画の世界の広がりと臨場感を演出する音場です。ドルビーサラウンドや DTS サラウンドの魅力を損なうことなく、さらに豊かな音場で映画の世界を楽しめます。
音楽	ライブハウスのステージの正面にいるような臨場感をつくり出します。
スポーツ	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組をライブ感豊かに楽しめます。
ゲーム	パソコンのゲームやテレビゲームの 3 次元的なサラウンド効果を楽しめます。
TV 番組	TV 番組の視聴に最適なサラウンド音声です。

- ステレオ（2 チャンネル）信号を入力しているときも、サラウンドで再生します。

2 チャンネルで再生する（ステレオ再生）

フロントのチャンネルをメインにしてステレオ再生します。

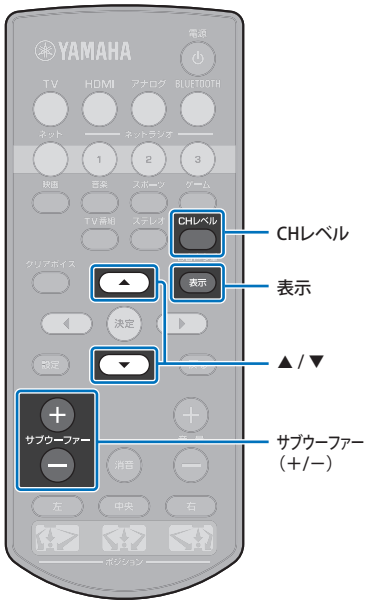
1 ステレオキーを押して、ステレオ再生に切り替える。

前面のインジケーター　SURROUND 消灯

各チャンネルの音量を調整する

各チャンネルの音（それぞれの方向からの音）がバランス良く聞こえるように、再生しながらチャンネルごとの音量を調整します。

- テスト音を聴きながら調節する場合は「チャンネルレベル」（50 ページ）をご覧ください。

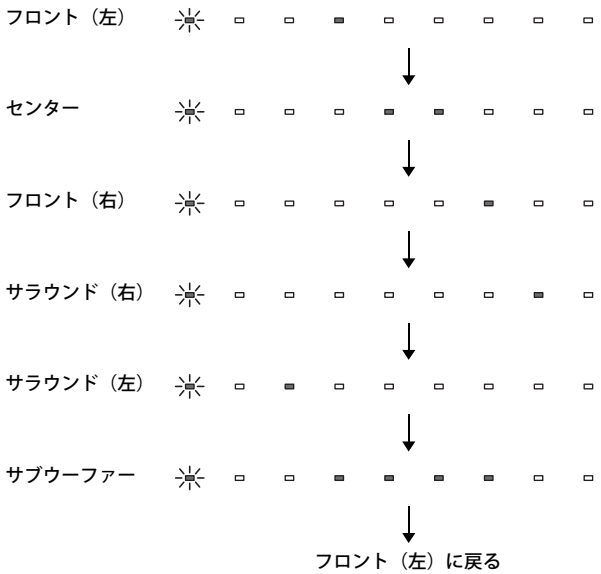


1 CH レベルキーを 3 秒以上押す。

2 CH レベルキーを押して、調節したいチャンネルを選ぶ。

CH レベルキーを押すたびに、以下のように出力チャンネルが切り替わります。

前面のインジケーター



- ステレオ再生（23 ページ）のときはサブウーファーの音量のみ調整できます。

3 ▲/▼ キーを押して、音量レベルを調節する。

音量調整中の表示

音量を上げるとインジケーターの点灯が右に移動し、下げると左に移動します。



音量が下がる（▼）⟷ 音量が上がる（▲）

音量バランスの調整例

- セリフが聞き取りにくい場合：C（センター）を選び、レベルを上げます。
  音の包囲感が少ない場合：SL（サラウンド左）と SR（サラウンド右）を選び、レベルを上げます。
- サブウーファーの音量はサブウーファー（＋/－）キーで調整することもできます。
- ポジション設定を切り換えると（19 ページ）、各チャンネルレベルはポジションに応じた設定値となります。

音声情報を確認する

再生している音声の情報を確認できます。

1 表示キーを押す。

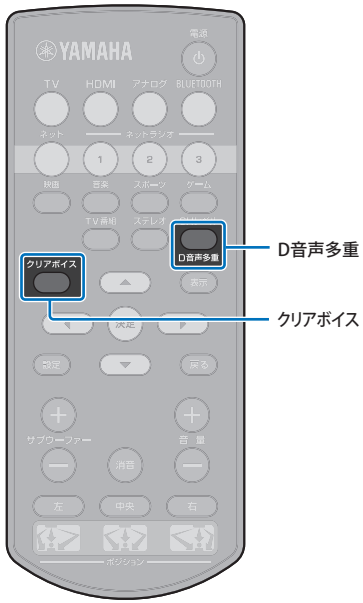
表示キーを押し続けているあいだ、以下の音声情報を前面のインジケーターで示します。



① HDMI ケーブルで ARC 対応テレビの音声を入力中
② 入力信号：AAC
③ 入力信号：DTS
④ 入力信号：ドルビーデジタル
⑤ ドルビープロロジック II 使用（入力している音声は 2 チャンネル）
⑥ クリアボイスがオン（25 ページ）

人の声を明瞭に再生する（クリアボイス）

映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声を聞きやすく再生します。



1 クリアボイスキーを押して、クリアボイスをオンにする。

前面のインジケーター



3 回点滅して消灯

もう一度押すと、オフになります。



1 回点滅して消灯

ニカ国語放送の音声を切り替える

BS / 地上デジタル放送のモノラル音声多重信号入力時に、再生する音声を選択します。

1 D 音声多重キーを繰り返し押す。

再生する音声の設定が以下のように切り替わります。

前面のインジケーター

主音声



3 回点滅して消灯

↓

副音声



3 回点滅して消灯

↓

主音声 + 副音声



3 回点滅して消灯

- 副音声が収録されていない場合やステレオ音声多重信号の場合は、音声は切り替わりません。再生機器側で主 / 副音声を切り替えてください。

Bluetooth を使ってワイヤレス再生する

モバイル端末やデジタル音楽プレーヤーなどの *Bluetooth* 機器の音声を本機に受信し、ワイヤレスで再生することができます。独自の音質特性改善技術「ミュージックエンハンサー」により、圧縮前の音源が持つ深みのある音声をお楽しみいただけます。

また、本機に入力した音声を *Bluetooth* スピーカーやヘッドホンに送信して聴くことができます。

ご使用の際には、*Bluetooth* 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

本機で音声を受信して再生する



本機

Bluetooth 機器
（モバイル端末など）

本機から音声を送信して再生する



本機

Bluetooth スピーカー / ヘッドホン

- モバイル端末などからの本機への受信と、本機からスピーカーなどへの送信は同時にできません。

- *Bluetooth* 機能を使うには、設定メニューの「Bluetooth」が「オン」（初期設定）になっていることが必要です（57 ページ）。

Bluetooth 機器を本機で楽しむには、以下の流れで操作してください。

はじめての操作

ペアリングを行う

はじめて接続するときは、*Bluetooth* 機器を本機に登録します。これを「ペアリング」といいます。ペアリングは、最初に接続するときのみ必要です。

2 回目以降の操作

***Bluetooth* 機器を接続して再生する**

Bluetooth 機器の音楽を聴く（受信）



本機に *Bluetooth* 機器を登録する（ペアリング）

1 リモコンの BLUETOOTH キーを押す。

入力が *Bluetooth* になります。

BLUETOOTH
点灯

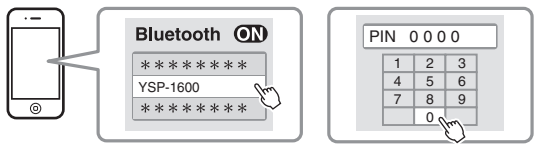
- 入力が *Bluetooth* にならないときは、以下の通りに設定されているか確認してください。
  - 設定メニューの「Bluetooth」が「オン」（57 ページ）
  - 設定メニューの「音声送信」が「オフ」（57 ページ）

2 *Bluetooth* 機器側の *Bluetooth* 機能をオンにする。

Bluetooth 機器により操作は異なります。お使いの機器の取扱説明書をご確認ください。

3 *Bluetooth* 機器側で *Bluetooth* 機器のリストが表示されたら、「YSP-1600」を選ぶ。

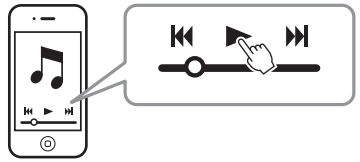
パスキー（PIN）の入力を要求されたら、数字の「００００」を入力します。



Bluetooth 機器側に、または接続完了メッセージが表示されたら、ペアリングは完了です。

ペアリング中は本機前面のインジケーターが点滅し、ペアリングが完了すると点灯します。

4 *Bluetooth* 機器側で曲を再生する。



- ペアリングは、本機と *Bluetooth* 機器の距離が 10m の範囲内で行ってください。
- 本機は受信 / 送信を合わせて最大 20 台の *Bluetooth* 機器とペアリングできます。21 台目の *Bluetooth* 機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器のペアリング情報が削除されます。
- *Bluetooth* 機器を接続したことがある場合、手順 1 で BLUETOOTH キーを押すと前回接続した機器と接続されます。接続をいったん切断してから、ペアリングを行ってください。
- ペアリングができない場合は、「故障かな？と思ったら」の「*Bluetooth* 」（64 ページ）をご覧ください。

本機で *Bluetooth* 機器を再生する



1 電源オンの状態でリモコンの BLUETOOTH キーを押す。

入力が *Bluetooth* になります。



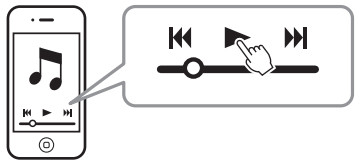
- 入力が *Bluetooth* にならないときは、以下の通りに設定されているか確認してください。
  - 設定メニューの「Bluetooth」が「オン」（57 ページ）
  - 設定メニューの「音声送信」が「オフ」（57 ページ）

2 *Bluetooth* 機器側の *Bluetooth* 機能をオンにする。



3 *Bluetooth* 機器側で *Bluetooth* 機器のリストが表示されたら、「YSP-1600」を選ぶ。

4 *Bluetooth* 機器側で曲を再生する。



- *Bluetooth* 接続は、本機から 10m の範囲以内で操作してください。
- 必要に応じて、*Bluetooth* 機器側の音量を調整してください。
- *Bluetooth* 機器を接続したことがある場合、手順 1 で BLUETOOTH キーを押すと前回接続した機器と接続されます。別の *Bluetooth* 機器と接続するには、接続中の機器をいったん切断してから接続してください。
- 設定メニューの「ネットワークスタンバイ」を「オン」にすると、*Bluetooth* 機器の操作により、本機の電源が連動します（56 ページ）。

Bluetooth 接続を切断する

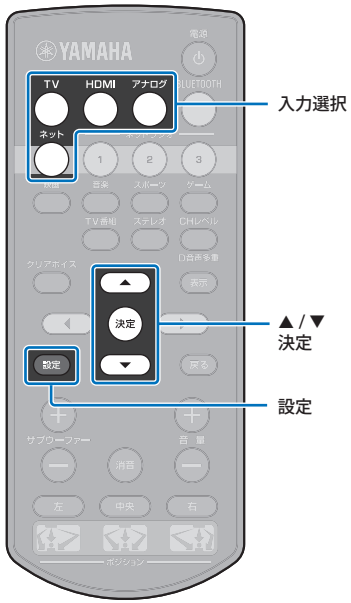
Bluetooth 接続中に以下のいずれかの操作を行うと、*Bluetooth* 接続が切断されます。

切断されると本機前面の Bluetooth インジケーターが消灯します。

- **本機の電源をオフにする。**
- **リモコンの BLUETOOTH キーを 3 秒以上押す。**
- ***Bluetooth* 機器側で *Bluetooth* 機能をオフにする。**

Bluetooth スピーカーやヘッドホンで楽しむ（送信）

本機に *Bluetooth* スピーカーやヘッドホンを登録する（ペアリング）



1 *Bluetooth* 機器の電源をオンにする。

2 入力選択キー（BLUETOOTH を除く）で音声ソースを選ぶ。

3 設定キーを 2 回押す。

テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。

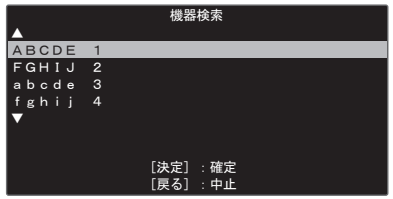
4 ▲/▼ キーで「Bluetooth」を選び、決定キーを押す。

5 ▲/▼ キーで「音声送信」を選び、決定キーを押す。

6 ▲/▼ キーで「オン」を選び、決定キーを押す。

7 ▲/▼ キーで「機器検索」を選び、決定キーを押す。

8 ▲/▼ キーで *Bluetooth* 機器を選び、決定キーを押す。

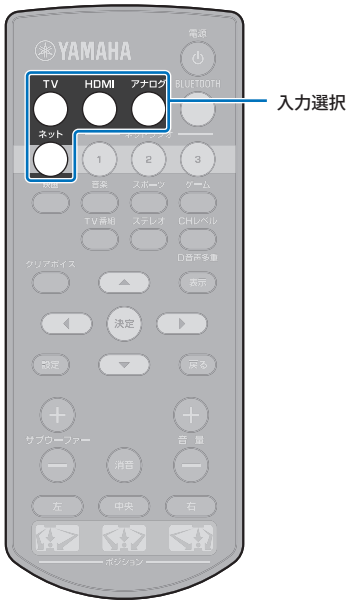


接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

ペアリング中は本機前面の *Bluetooth* インジケーターが点滅し、ペアリングが完了すると点灯します。

- 「0000」以外のパスキーが設定されている *Bluetooth* 機器は接続できません。
- 設定メニューの「Bluetooth」（57 ページ）が「オン」になっていないと、*Bluetooth* 機能は使えません。
- ペアリングは、本機と *Bluetooth* 機器の距離が 10m の範囲内で行ってください。
- 本機は受信 / 送信を合わせて最大 20 台の *Bluetooth* 機器とペアリングできます。21 台目の *Bluetooth* 機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器のペアリング情報が削除されます。
- 本機が機器名を認識できない場合、その機器は手順 8 の画面で「Not found」と表示されます。
- ペアリングができない場合は、「故障かな？と思ったら」の「*Bluetooth*」（64 ページ）をご覧ください。

本機からの音声を *Bluetooth* スピーカーやヘッドホンで再生する



- 設定メニューの「音声送信」が「オン」になっていることを確認してください（57 ページ）。
- AirPlay で再生しているときは（45 ページ）、*Bluetooth* 機器に接続できません。

1 *Bluetooth* 機器の電源をオンにする。

2 入力選択キー（BLUETOOTH を除く）で音声ソースを選ぶ。

Bluetooth 機器を接続したことがある場合、前回接続した機器と接続されます。手順 4 に進んでください。

別の機器と接続する場合は、手順 3 に進みます。

3 「本機に **Bluetooth** スピーカーやヘッドホンを登録する（ペアリング）」の手順 3-8 にしたがって操作する。

接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

接続中は本機前面のインジケーターが点滅し、接続が完了すると点灯します。

4 音声ソースを再生します。

- *Bluetooth* 接続は、本機から 10m の範囲以内で操作してください。
- 必要に応じて、*Bluetooth* 機器側の音量を調整してください。
- 本機からも再生音が出ます。

Bluetooth 接続を切断する

Bluetooth 接続中に以下のいずれかの操作を行うと、*Bluetooth* 接続が切断されます。

切断されると本機前面のインジケーターが消灯します。

- ***Bluetooth* 機器側で *Bluetooth* 接続を切断する、または電源をオフにする。**
- **設定メニューの「音声送信」を「オフ」にする。**
- **本機の電源をオフにする。**

ネットワークを活用する

ネットワークに接続する

ご利用のネットワーク環境に合わせて、有線ネットワークまたは無線ネットワーク接続（32 ページ）を選びます。

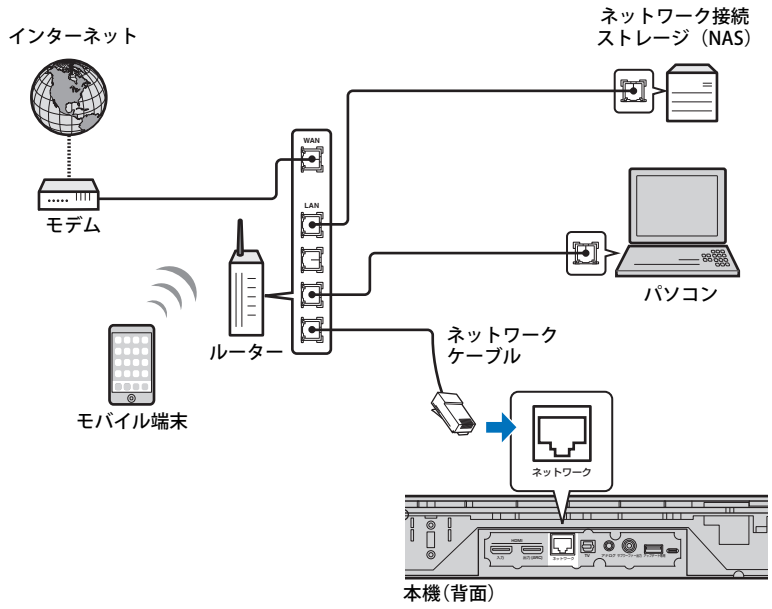
ネットワークに接続することで、インターネットラジオや AirPlay、パソコン（サーバー）に保存されている音楽ファイルを本機で再生できます。「MusicCast CONTROLLER」アプリをインストールしたモバイル端末から本機を操作して、いろいろな音声ソースをお楽しみください。

- セキュリティソフトや、ネットワーク機器の設定（ファイアウォールなど）により、本機がパソコンやインターネットラジオにアクセスできないことがあります。その場合はセキュリティソフトやネットワーク機器の設定を変更してください。
- ルーターの MAC アドレスフィルターが有効になっている場合は接続できません。ルーターの設定を確認してください。
- サブネットを手動で設定する際は、すべて本機と同じサブネットに設定してください。
- インターネットサービスは、ブロードバンド回線の使用をおすすめします。

- DHCP サーバー対応のルーターをお使いの場合は、本機でネットワーク設定を行う必要はありません。ネットワーク情報（IP アドレスなど）が自動で割り当てられます。ルーターが DHCP サーバー非対応の場合や、ネットワーク情報を手動で割り当てる場合は、ネットワーク設定（54 ページ）が必要になります。
- 設定メニューの「ネットワーク情報」（54 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレスなど）が正しく取得されていることを確認できます。
- 「MusicCast CONTROLLER」については弊社ウェブページをご覧ください。

有線ネットワークの接続

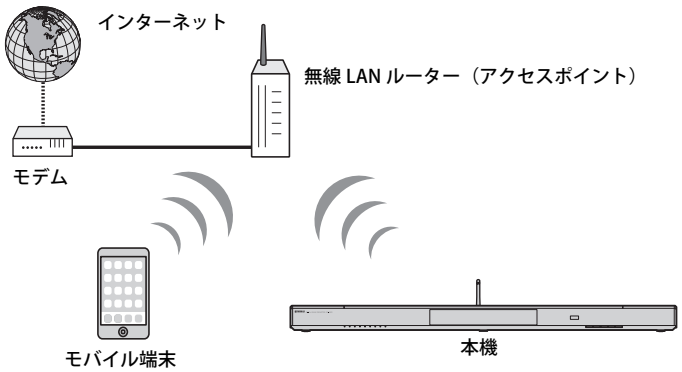
有線ネットワークを利用するには、市販の STP ネットワークケーブル（CAT-5 以上のストレートケーブル）を使って、本機をルーターに接続します。



- すでに無線ネットワークに接続している場合、有線ネットワーク接続に変更するには設定メニューの「ネットワーク」を「有線」に変更してください。

無線ネットワーク

本機を無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に接続します。



接続方法については「無線ネットワークに接続する」をご覧ください。

無線ネットワークに接続すると、前面の インジケーターが点灯します。



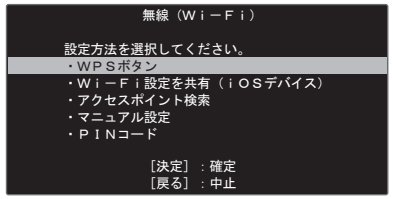
点灯（緑）

- 有線ネットワーク接続（31 ページ）やワイヤレスダイレクト（40 ページ）と同時に使用することはできません。
- 本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）が離れていると接続できない場合があります。そのような場合は本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を近づけて設置してください。

- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を使わない場合は、モバイル端末と本機を直接接続し、モバイル端末にインストールした HOME THEATER CONTROLLER (WLAN) アプリを使って本機を操作できます（40 ページ）。

無線ネットワークに接続する

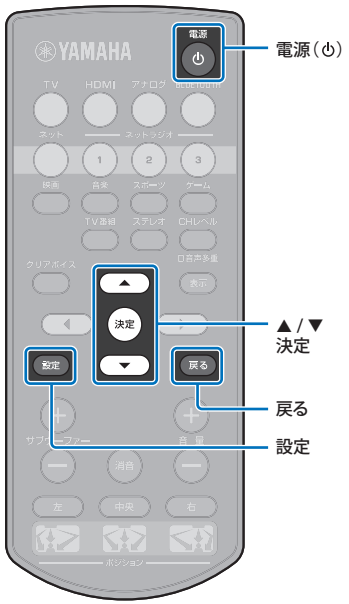
お使いのネットワーク環境に合わせて、設定メニューの「無線（Wi-Fi）」から接続方法を選びます。



選択項目	操作内容
WPS ボタン	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを使って設定します。
Wi-Fi 設定を共有（iOS デバイス）	iOS デバイス（iPhone など）のネットワーク設定を適用します。
アクセスポイント検索	検索したアクセスポイント一覧から、接続先を選びます。
マニュアル設定	SSID など、必要な情報を手動で入力して、無線ネットワーク接続を設定します。
PIN コード	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に PIN コードを入力して、無線ネットワーク接続を設定します。無線 LAN ルーター（アクセスポイント）が PIN コード式の WPS に対応している場合に利用できます。

接続方法を選ぶポイント

こんなときは …	この方法で
iOS 搭載の機器で、簡単にネットワークに接続したい	Wi-Fi 設定を共有（iOS デバイス）（33 ページ）
WPS（プッシュボタン方式）に対応した無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に接続したい	WPS ボタン（34 ページ）
WPS（PIN コード入力方式）に対応した無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に接続したい	PIN コード（39 ページ）
近くのアクセスポイントを検索して接続したい	アクセスポイント検索（35 ページ）
検索しても検出できないアクセスポイントに直接接続したい	マニュアル設定（37 ページ）



iOS デバイスの設定を共有する

お手持ちの iOS デバイス（iPhone など）のネットワーク設定を本機に適用して、簡単に接続することができます。

設定を始める前に、お使いの iOS デバイスが無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に接続されていることを確認してください。

- iOS 7.1 以降を搭載した iOS デバイスが必要です。
- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の暗号化方式に WEP が使用されている場合は、iOS デバイスを使った接続ができません。「無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を検索する」（35 ページ）で接続してください。

1 電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオンにする。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える（18 ページ）。

3 設定キーを 2 回押す。

テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。

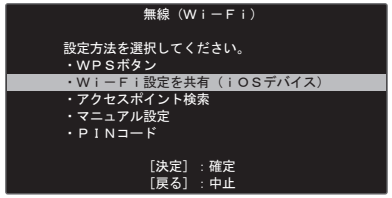
4 ▲/▼ キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。

5 ▲/▼ キーで「ネットワーク接続」を選び、決定キーを押す。

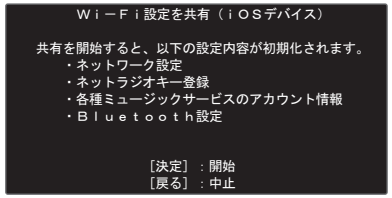
6 ▲/▼ キーで「無線（Wi-Fi）」を選び、決定キーを押す。



7 ▲/▼ キーで「Wi-Fi 設定を共有（iOS デバイス）」を選び、決定キーを押す。

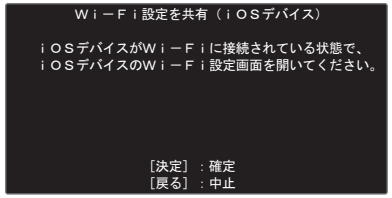


8 以下の画面が表示されたら、決定キーを押す。



- 画面には初期化する内容が表示されています。初期化したくない場合は、戻るキーを押して接続を中止してください。

9 以下の画面が表示されたら、決定キーを押す。

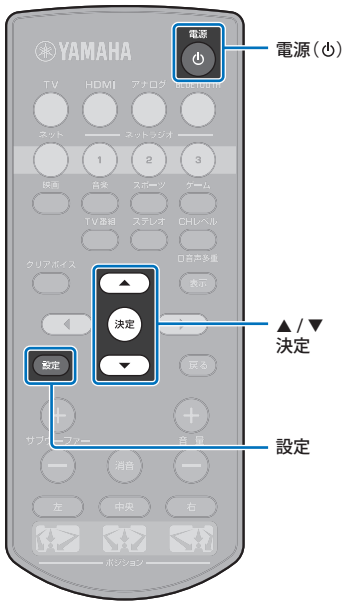


10 iOS デバイスの Wi-Fi 設定画面を開き、「新しい AIRPLAY スピーカーを設定...」から本機を選ぶ。

以降は、iOS デバイスの画面の指示にしたがって操作します。

WPS ボタンを使って設定する

無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを押すだけで、簡単に接続することができます。



1 電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオンにする。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える（18 ページ）。

3 設定キーを 2 回押す。

テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。

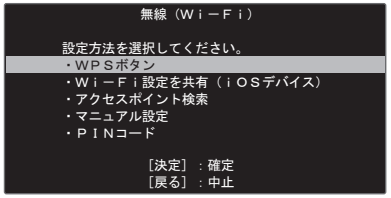
4 ▲/▼ キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。

5 ▲/▼　キーで「ネットワーク接続」を選び、決定キーを押す。

6 ▲/▼ キーで「無線（Wi-Fi）」を選び、決定キーを押す。



7 ▲/▼ キーで「WPS ボタン」を選び、決定キーを押す。



8 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを押す。

9 決定キーを押す。

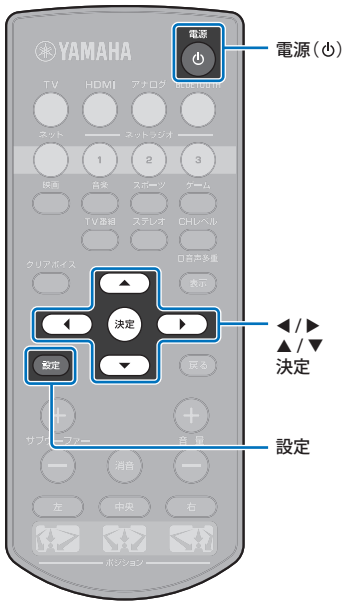
接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、決定キーを押して手順 6 からやり直すか、以下を参考にして別の接続方法をお試しください。

- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の暗号化方式に WEP が使用されている場合、または MAC アドレスフィルターが有効になっている場合は、WPS ボタンを使った接続ができません。「無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を検索する」（35 ページ）で接続してください。
- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の ESS-ID ステルス機能（SSID の隠蔽）が有効になっている場合は、WPS ボタンを使った接続ができません。「手動で無線接続を設定する」（37 ページ）で接続してください。

WPS とは

WPS（Wi-Fi Protected Setup）とは、Wi-Fi Alliance によって策定された規格です。WPS により、無線ネットワークを簡単に設定できます。



無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を検索する

近くの無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を検索して接続します。

1 電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオンにする。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える（18 ページ）。

3 設定キーを 2 回押す。

テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。

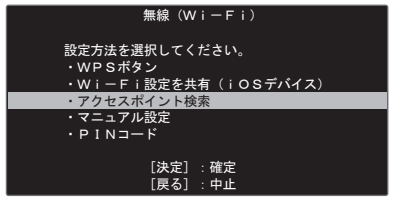
4 ▲/▼ キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。

5 ▲/▼ キーで「ネットワーク接続」を選び、決定キーを押す。

6 ▲/▼ キーで「無線（Wi-Fi）」を選び、決定キーを押す。



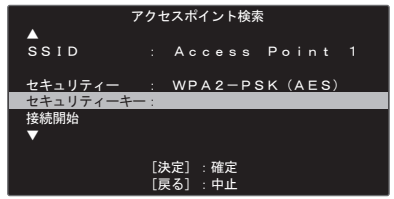
7 ▲/▼ キーで「アクセスポイント検索」を選び、決定キーを押す。



利用できるアクセスポイントの一覧が表示されます。

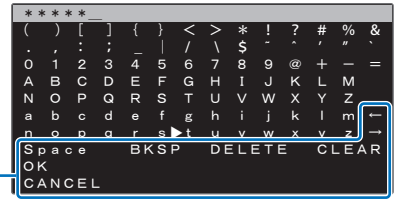
8 ▲/▼ キーで接続したいアクセスポイントを選び、決定キーを押す。

無線接続の設定画面が表示されます。



9 決定キーを押す。

10 ◀/▶/▲/▼ キーと決定キーでセキュリティーキーを入力する。



[←]/[→]：カーソルを左右に移動させる。
[Space]：スペースを入力する。
[BKSP]：カーソル左の文字を削除する。
[DELETE]：カーソル上の文字を削除する。
[CLEAR]：入力した文字をすべて削除する。
[CANCEL]：入力を取り消してひとつ前の画面に戻る。

入力が終わったら「OK」を選び、決定キーを押します。手順 8 の画面に戻ります。

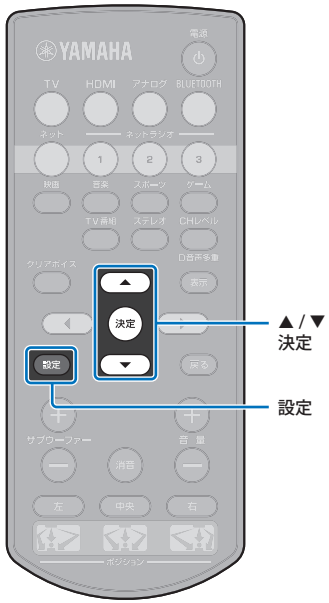
11 **▲/▼ キーで「接続開始」を選び、決定キーを押して、接続を開始する。**

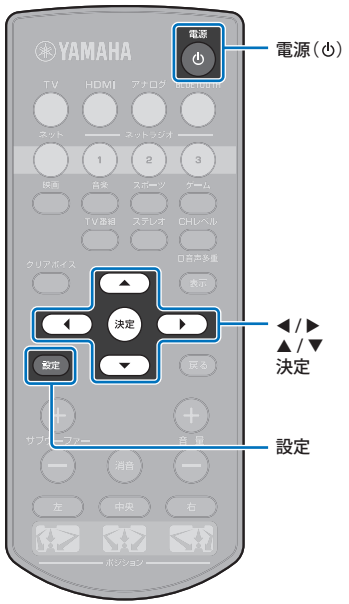
接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、決定キーを押して手順 6 からやり直すか、以下を参考にして別の接続方法をお試しください。

- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の ESS-ID ステルス機能（SSID の隠蔽）が有効になっている場合は、「アクセスポイント検索」を使った接続ができません。「手動で無線接続を設定する」（37 ページ）で接続してください。

12 **設定メニューを終了するには、設定キーを押す。**





手動で無線接続を設定する

SSID（ネットワーク名）や暗号化方式、セキュリティーキーを手動で設定します。

1 電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオンにする。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える（18 ページ）。

3 設定キーを 2 回押す。

テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。

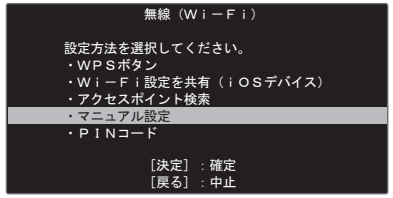
4 ▲/▼ キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。

5 ▲/▼ キーで「ネットワーク接続」を選び、決定キーを押す。

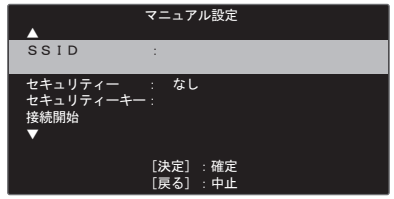
6 ▲/▼ キーで「無線（Wi-Fi）」を選び、決定キーを押す。



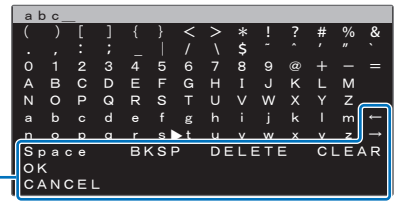
7 ▲/▼ キーで「マニュアル設定」を選び、決定キーを押す。



8 ▲/▼ キーで「SSID」を選ぶ。



9 ◀/▶/▲/▼ キーと決定キーで無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の SSID を入力する。



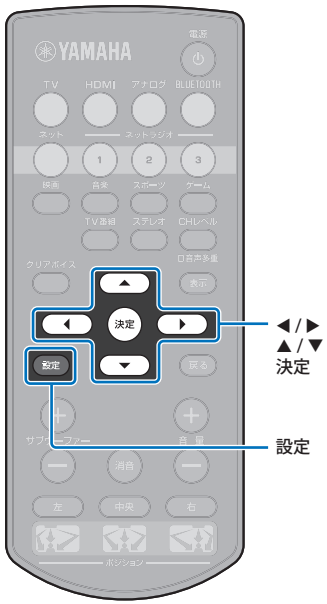
[←]/[→]：カーソルを左右に移動させる。
[Space]：スペースを入力する。
[BKSP]：カーソル左の文字を削除する。
[DELETE]：カーソル上の文字を削除する。
[CLEAR]：入力した文字をすべて削除する。
[CANCEL]：入力を取り消してひとつ前の画面に戻る。

入力が終わったら「OK」を選び、決定キーを押します。手順 8 の画面に戻ります。

10 ▲/▼ キーで「セキュリティー」を選び、◀/▶ キーで暗号化方式を選ぶ。

選択項目
なし、WEP、WPA2-PSK（AES）、Mixed Mode

- 「なし」を選ぶと通信が暗号化されないため、第三者に無断で本機に接続される危険性があります。



11 ▲/▼ キーで「セキュリティーキー」を選び、決定キーを押す。

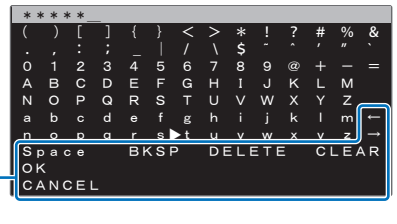
- 手順 10 で「なし」を選んだ場合は、セキュリティーキーは設定できません。

12 ◀/▶/▲/▼ キーと決定キーでセキュリティーキーを入力する。

手順 10 で「WEP」を選んだ場合は、5 文字または 13 文字の文字列、または 10 桁または 26 桁の 16 進数を入力してください。

「WEP」以外を選んだ場合は、8 文字から 63 文字までの文字列、または 64 桁の 16 進数を入力してください。

- 16 進数は、0 ～ 9 の数字および a ～ f までのアルファベットを使います。アルファベットの大文字 / 小文字の区別はありません。



[←]/[→]：カーソルを左右に移動させる。
[Space]：スペースを入力する。
[BKSP]：カーソル左の文字を削除する。
[DELETE]：カーソル上の文字を削除する。
[CLEAR]：入力した文字をすべて削除する。
[CANCEL]：入力を取り消してひとつ前の画面に戻る。

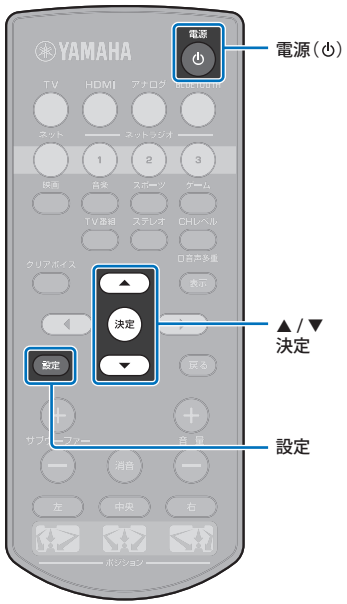
入力が終わったら「OK」を選び、決定キーを押します。手順 8 の画面に戻ります。

13 ▲/▼ キーで「接続開始」を選び、決定キーを押して、接続を開始する。

接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、決定キーを押して手順 6 からやり直してください。

14 設定メニューを終了するには、設定キーを押す。



PIN コード方式の WPS を使う

無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に本機の PIN コードを設定して接続します。

1 電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオンにする。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える（18 ページ）。

3 設定キーを 2 回押す。

テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。

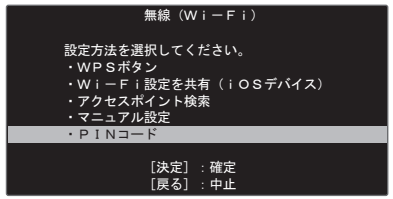
4 ▲/▼ キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。

5 ▲/▼ キーで「ネットワーク接続」を選び、決定キーを押す。

6 ▲/▼ キーで「無線（Wi-Fi）」を選び、決定キーを押す。



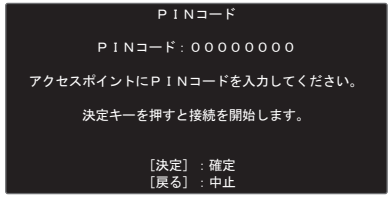
7 ▲/▼ キーで「PIN コード」を選び、決定キーを押す。



テレビ画面に利用可能なアクセスポイントの一覧が表示されます。

8 ▲/▼ キーで接続したいアクセスポイントを選び、決定キーを押す。

本機の PIN コードが表示されます。



9 本機の PIN コードを無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に設定する。

設定方法については無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の取扱説明書をご覧ください。

10 決定キーを押して、接続を開始する。

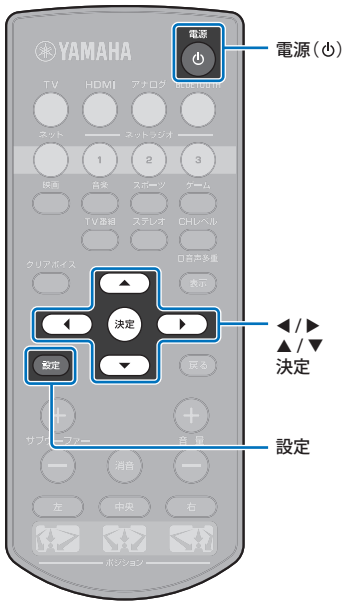
接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、決定キーを押して手順 6 からやり直すか、以下を参考にして別の接続方法をお試しください。

- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の暗号化方式に WEP が使用されている場合、または MAC アドレスフィルターが有効になっている場合は、PIN コードを使った接続ができません。「無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を検索する」（35 ページ）で接続してください。

11 設定メニューを終了するには、設定キーを押す。

モバイル端末を本機に直接接続する（ワイヤレスダイレクト）

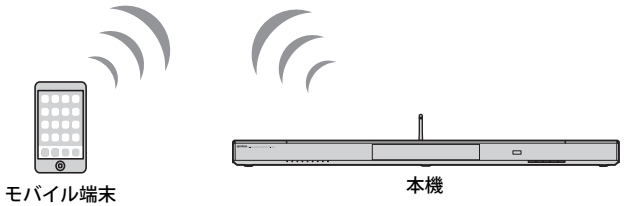


無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を使わずに、モバイル端末と本機を直接接続します。

ワイヤレスダイレクトでは、以下の機能が使えます。

– 専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」または「HOME THEATER CONTROLLER (WLAN)」をインストールしたモバイル端末から本機を操作する。

– AirPlay を使って iOS デバイスの音楽ファイルを本機で再生する。



- 有線ネットワーク接続（31 ページ）や無線ネットワーク接続（32 ページ）と同時に使用することはできません。
- ワイヤレスダイレクト使用時はインターネットに接続できません。したがってインターネットラジオなどのインターネットサービスは使用できません。

1 電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオンにする。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える（18 ページ）。

3 設定キーを 2 回押す。

テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。

4 ▲/▼ キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。

5 ▲/▼ キーで「ネットワーク接続」を選び、決定キーを押す。

6 ▲/▼ キーで「無線（携帯端末を直接接続）」を選び、決定キーを押す。



7 ▲/▼ キーで「セキュリティー」を選び、◀/▶ キーで暗号化方式を選ぶ。

選択項目

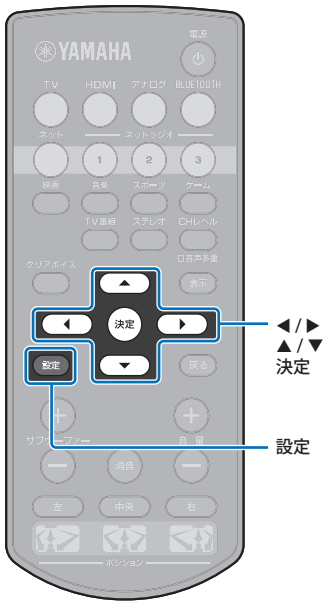
なし、WPA2-PSK（AES）

通常は「WPA2-PSK（AES）」を選んでください。お使いのモバイル端末が WPA2-PSK（AES）に対応していない場合は、「なし」を選んでください。

- 「なし」を選ぶと通信が暗号化されないため、第三者に無断で本機に接続される危険性があります。

8 ▲/▼ キーで「セキュリティーキー」を選び、決定キーを押す。

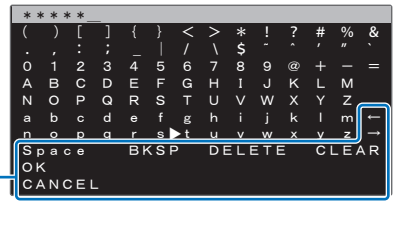
- 手順 7 で「なし」を選んだ場合は、セキュリティーキーは設定できません。



9 ◀/▶/▲/▼ キーと決定キーでセキュリティーキーを入力する。

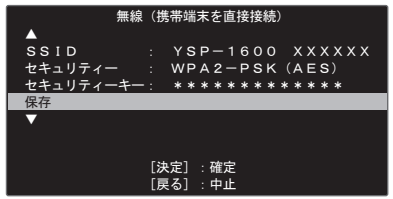
8 文字から 63 文字までの文字列、または 64 桁の 16 進数を入力してください。

- 16 進数は、0 ～ 9 の数字および a ～ f までのアルファベットを使います。アルファベットの大文字 / 小文字の区別はありません。



[←]/[→]：カーソルを左右に移動させる。
[Space]：スペースを入力する。
[BKSP]：カーソル左の文字を削除する。
[DELETE]：カーソル上の文字を削除する。
[CLEAR]：入力した文字をすべて削除する。
[CANCEL]：入力を取り消してひとつ前の画面に戻る。

入力が終わったら「OK」を選び、決定キーを押します。以下のような画面が表示されます。



- 次に進む前に、以下の情報を控えておいてください。これらの情報はモバイル端末の Wi-Fi 設定を行うときに必要です。
  - テレビ画面に表示されている SSID
  - 入力したセキュリティーキー

10 ▲/▼ キーで「保存」を選び、決定キーを押す。

設定が完了し、テレビ画面に「端末を設定してください」と表示されます。

これにより本機はアクセスポイントとして動作します。

次に、モバイル端末の Wi-Fi 設定を行います。

11 モバイル端末の Wi-Fi 設定を行う。

設定方法についてはモバイル端末の取扱説明書をご覧ください。

① モバイル端末の Wi-Fi 機能を有効にする。
② アクセスポイントの一覧が表示されたら、手順9で確認したSSIDを選ぶ。
③ パスワードの入力を求められたら、手順 9 で確認したセキュリティーキーを入力する。

12 設定メニューを終了するには、設定キーを押す。

パソコン（サーバー）の音楽ファイルを聴く

パソコンや DLNA 対応のネットワーク接続ストレージ（NAS）に保存されている音楽ファイルを本機で再生します。

- この機能を使用するには、本機とパソコン（サーバー）が同じルーターに接続されている必要があります（31 ページ）。設定メニューの「ネットワーク情報」（54 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- 無線ネットワーク接続時に音声が途切れる場合は、有線でネットワークに接続してください。

- 再生できるファイルフォーマットは以下の通りです。
  - WAV（PCM フォーマットのみ）、MP3、WMA、MPEG-4 AAC、FLAC、ALAC ファイルに対応しています（1 ～ 2 チャンネル音声のみ再生可能）。
  - WAV および FLAC ファイルは 192kHz まで、ALAC ファイルは 96kHz まで、その他のファイルは 48kHz までのサンプリング周波数に対応しています。
  - WAV、FLAC、ALAC ファイルのギャップレス再生に対応しています。
  - FLAC ファイルを再生するには、パソコン（サーバー）にインストールされているサーバーソフトが、DLNA を使った FLAC ファイルの共有に対応している必要があります。
  - DRM（デジタル著作管理）により保護されたファイルは再生できません。

メディアの共有設定を行う

パソコン（サーバー）に保存されている音楽ファイルを本機で再生するには、各機器で本機とのメディア共有を有効にする必要があります。

Windows Media Player がインストールされているパソコン

本機は Windows Media Player 11 以降に対応しています。ここでは例として、Windows Media Player 12 の設定方法を説明します。

1. パソコンで Windows Media Player 12 を起動する。
2. メニューバーの「ストリーム」から、「メディアストリーミングを有効にする」を選ぶ。
3. 「メディアストリーミングを有効にする」をクリックする。
4. 機種名の右側にあるドロップダウン・リストで「許可」を選ぶ。
5. 「OK」をクリックして設定を終了する。

Windows Media Player 以外の DLNA サーバーソフトがインストールされているパソコン（サーバー）

各機器またはソフトウェアの取扱説明書を参照してメディアの共有設定を行ってください。

音楽ファイルを再生する

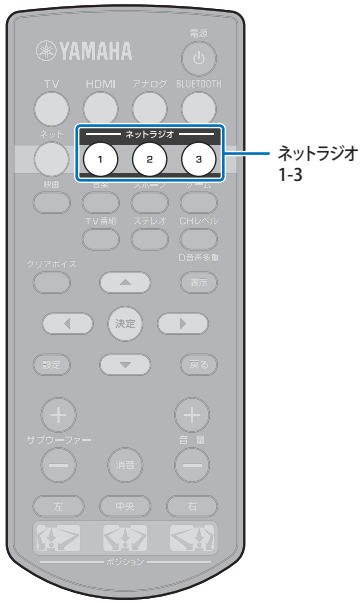
モバイル端末にインストールした「MusicCast CONTROLLER」アプリを使用して再生します。

- 再生の前に MusicCast CONTROLLER アプリの基本設定を行ってください。
- 詳しくは、付属の「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。

インターネットラジオを聴く

インターネットラジオ放送を受信します。

- この機能を使用するには、本機がインターネットに接続されている必要があります（31 ページ）。設定メニューの「ネットワーク情報」（54 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- インターネットラジオ局や時間帯によっては、受信できないことがあります。
- この機能は、vTuner ラジオ局データベースサービスを利用します。
- 本サービスは事前の通知なく中止される場合があります。



ネットラジオ 1-3

インターネットラジオ局を選ぶ

モバイル端末にインストールした「MusicCast CONTROLLER」アプリを使用して、インターネットラジオ局を選びます。

- 選局する前に MusicCast CONTROLLER アプリの基本設定を行ってください。
- 詳しくは、付属の「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。

お気に入りのインターネットラジオ局を登録する

インターネットラジオ局をリモコンのネットラジオキーや、vTuner の Bookmarks フォルダーに登録します。

ネットラジオキーを使って登録する

1 登録したいインターネットラジオ局を再生する。

2 ネットラジオ 1-3 キーのいずれかを 3 秒以上押す。

❑ 登録したインターネットラジオ局を呼び出す

1 インターネットラジオ局を登録したネットラジオ 1、2、または 3 キーを押す。

入力が「ネット」に切り替わり、再生が始まります。



点灯

vTuner のウェブサイトで登録する

vTuner のウェブサイトから Bookmarks フォルダーにお気に入りのインターネットラジオ局を登録することもできます。

1 **本機でいずれかのインターネットラジオ局を再生する。**

初めて登録するときに必要な操作です。

2 **本機の vTuner ID を調べる。**

本機の vTuner ID は設定メニューの「ネットワーク情報」（54 ページ）で確認できます。

3 **パソコンのウェブブラウザーで vTuner ウェブサイト（http://yradio.vtuner.com/）にアクセスし、本機の vTuner ID を入力する。**



- ブックマークの登録にはアカウント作成が必要です。電子メールアドレスを入力し、アカウントを作成してください。

4 **お気に入りのインターネットラジオ局を登録する。**

登録したいラジオ局の追加（♥＋）アイコンをクリックします。

- ブックマークを削除するには、Home 画面から Bookmarks を選び、削除したいラジオ局の削除（♥－）アイコンをクリックします。

radiko.jp を聴く

radiko.jp は、地上波ラジオ放送を CM も含めて同時にインターネットで配信する「IP（Internet Protocol）サイマルラジオ」サービスです。放送エリアに準じた地域に配信するサービスのため、エリア（都道府県）ごとに対応している放送局が異なります。対応しているエリアや放送局については、radiko.jp のウェブページをご覧ください。

- radiko.jp プレミアム（エリアフリー聴取）を利用すると、全国のラジオ局を受信できます。
- radiko.jp プレミアムを利用するには、radiko.jp のウェブサイトでプレミアム会員登録（有料）してください。登録後、モバイル端末にインストールした「MusicCast CONTROLLER」アプリからログイン名とパスワードを入力してください。

放送局名から選局する

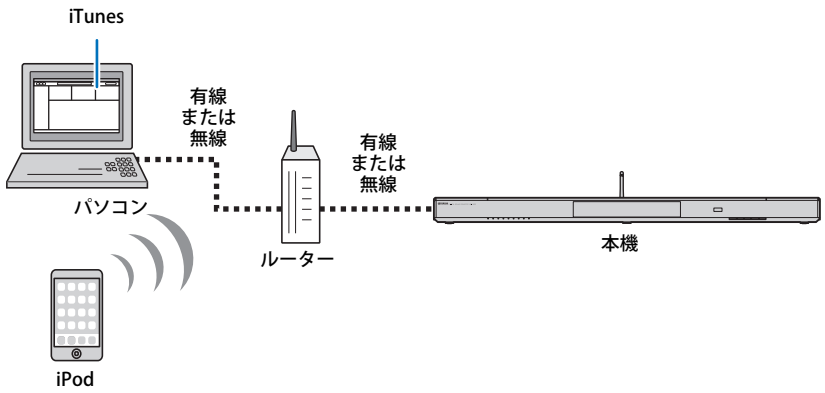
モバイル端末にインストールした「MusicCast CONTROLLER」アプリを使用して、選局します。

- 選局する前に MusicCast CONTROLLER アプリの基本設定を行ってください。
- 詳しくは、付属の「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。

AirPlay で音楽を聴く

AirPlay 機能を使って、iTunes や iPod の音楽ファイルをネットワーク経由で再生します。

- この項では iPod touch、iPhone、iPad を総称して「iPod」と表記しています。説明文に限定する記載がない場合、「iPod」という表記は iPod touch、iPhone および iPad を意味します。



- この機能を使用するには、本機とパソコンや iPod が同じルーターに接続されている必要があります（31 ページ）。設定メニューの「ネットワーク情報」（54 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- マルチ SSID 対応ルーターでは、接続する SSID により他の機器へのアクセスが制限されることがあります。本機と iPod は同じ SSID に接続してください。
- AirPlay は iOS 4.3.3 以降を搭載した iPhone、iPad、iPod touch、OSX Mountain Lion を搭載した Mac、iTunes 10.2.2 以降を搭載した Mac と PC において動作します。

iTunes/iPod で曲を再生する

iTunes/iPod を操作して再生を始めます。

1 **本機の電源をオンにし、iTunes を起動する、または iPod の音楽再生画面を表示する。**

iTunes/iPod が本機を認識すると AirPlay アイコン（ ）が表示されます。

iTunes（表示例）



iPod iOS7/iOS8（表示例）

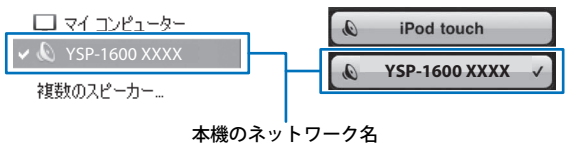


iPod iOS6（表示例）



- アイコンが表示されない場合は、本機とパソコンや iPod が正しくルーターに接続されているか確認してください。

2 **iTunes/iPod で AirPlay アイコンをクリック（タップ）し、音声の出力先として本機（ネットワーク名）を選ぶ。**



3 iTunes/iPod を操作して曲を再生する。

iPod の「ミュージック」アプリ、またはパソコンの iTunes を使って再生します。
本機の入力が「ネット」に切り替わり、再生が始まります。



点灯

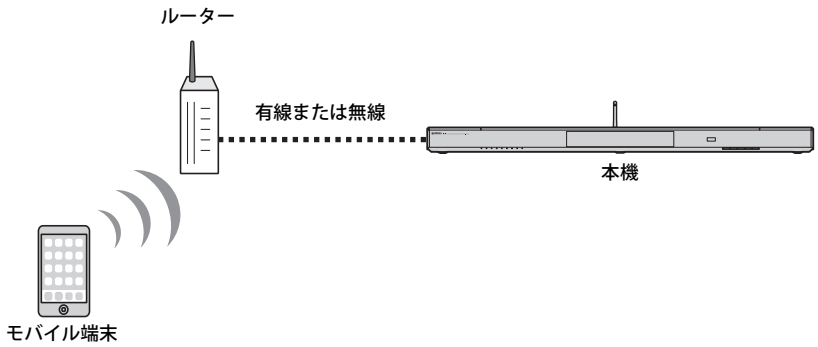
- 設定メニューの「ネットワークスタンバイ」（56 ページ）を「オン」に設定した場合は、iTunes/iPod で再生を始めると本機の電源が自動的にオンになります。
- iTunes/iPod に表示される本機のネットワーク名は、設定メニューの「ネットワーク名」（56 ページ）で変更できます。
- 再生中は iTunes/iPod から本機の音量を操作できます。

注意

- iTunes/iPod で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、本機やスピーカーが故障する場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐに iTunes/iPod の再生を停止してください。

モバイル端末の音楽を聴く

モバイル端末の音楽ファイルをネットワーク経由で再生します。



- この機能を使用するには、本機とパソコンやモバイル端末が同じルーターに接続されている必要があります（31 ページ）。設定メニューの「ネットワーク情報」（54 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- マルチ SSID 対応ルーターでは、接続する SSID により他の機器へのアクセスが制限されることがあります。本機とモバイル端末は同じ SSID に接続してください。

モバイル端末で曲を再生する

モバイル端末にインストールした「MusicCast CONTROLLER」アプリを使用して再生します。

- 再生の前に MusicCast CONTROLLER アプリの基本設定を行ってください。
- 詳しくは、付属の「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。

注意

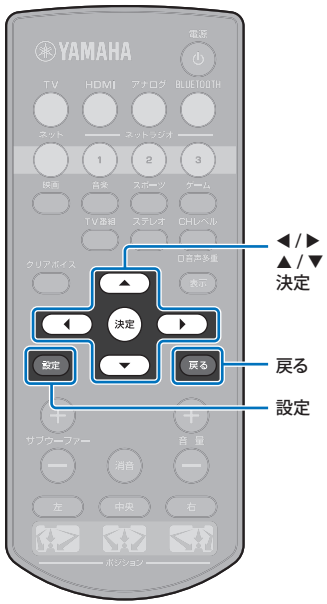
- モバイル端末で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、本機やスピーカーが故障する場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐにモバイル端末の再生を停止してください。

設定する

設定メニュー

設定メニューには、チャンネルレベルなどの音の調節、HDMI やネットワークの設定など、本機を使いこなすためのいろいろな設定があります。

設定メニューはテレビ画面を見ながら設定します。テレビにメニューを表示させる方法については、「メニュー画面をテレビに表示する」（18 ページ）をご覧ください。

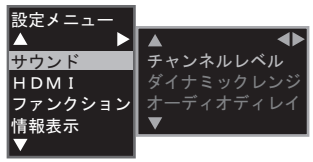


操作手順

1 **設定キーを押す。**

ネットワークや Bluetooth の設定メニューを表示するには、設定キーを 2 回押してください。

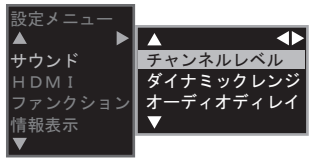
設定メニュー



- **設定キーを 3 秒以上押すと、言語選択の画面になります（52 ページ）。**
- **ファームウェアの更新が可能な場合は、封筒アイコン（ ）が表示されます（59 ページ）**

2 **▲/▼ キーを押してメニューを選び、決定キーを押す。**

設定したいメニューが表示されるまで、この手順を繰り返してください。



決定キーの替わりに ▶ キーも使えます。

◀ キーまたは戻るキーを押すと、ひとつ前のメニュー表示に戻ります。

3 **▲/▼ キーを押して、各メニューを設定する。**

4 **設定キーを押して、設定メニューを終了する。**

設定メニューリスト

メニュー		項目	内容	ページ
サウンド	チャンネルレベル	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー	各チャンネルの音量を調節します。	50
	ダイナミックレンジ		ダイナミックレンジを設定します。	50
	オーディオディレイ		映像と音声の出力タイミングのずれを調整します。	50
HDMI	HDMI コントロール		HDMI コントロール機能のオン / オフを切り替えます。	51
	HDMI 音声出力		HDMI 入力した音声を、本機またはテレビのどちらで再生するかを設定します。	51
	音声入力端子		入力ソースに HDMI を選んでいるときの音声を、光デジタル端子または HDMI 端子から入力するか指定します。	51
ファンクション	ディマー		前面インジケーターの明るさを調節します。	52
	メニュー言語		メニュー画面の表示言語を設定します。	52
	自動スタンバイ		自動スタンバイモードのオン / オフを切り替えます。	52
	TV リモコンリピーター		テレビリモコンリピーター機能のオン / オフを切り替えます。	58
情報表示	音声		入力している音声信号の情報を表示します。	53
	映像		入力している映像信号の情報を表示します。	53
	システム		本機のファームウェアのバージョンを表示します。	53
ネットワーク	ネットワーク情報		本機のネットワーク情報を表示します。	54
	ネットワーク接続		ネットワークへの接続方法を設定します。	54
	IP アドレス	DHCP、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバー（P）、DNS サーバー（S）	ネットワーク情報（IP アドレスなど）を設定します。	55
	MAC アドレスフィルター	フィルター、MAC アドレス 1-10	MAC アドレスを指定して本機を操作できるネットワーク機器を制限します。	55
	ネットワークスタンバイ		ネットワーク機器から本機の電源を入れる機能（ネットワークスタンバイ）を有効 / 無効にします。	56
	ネットワーク名		ネットワークに表示される本機の名称を設定します。	56
	ネットワークアップデート	アップデート実行	本機のファームウェアをネットワーク経由で更新します。	56
Bluetooth	Bluetooth		*Bluetooth* 機能のオン / オフを切り替えます。	57
	音声送信		*Bluetooth* 機器（*Bluetooth* スピーカーなど）への音声送信機能をオン / オフします。	57
	機器検索		本機から音声を送信する *Bluetooth* 機器（*Bluetooth* スピーカーなど）を検索します。	57
	MAC アドレス		*Bluetooth* 接続の MAC アドレスを表示します。	57

サウンド

チャンネルレベル

設定メニュー → サウンド → チャンネルレベル

チャンネルごとに出力されるテスト音を聴きながら、各チャンネルの音がバランス良く聞こえるように、チャンネルごとの音量を調節します。

設定項目
フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー

調整範囲
－ 10 ～＋ 10

ダイナミックレンジ

設定メニュー → サウンド → ダイナミックレンジ

ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を設定します。

選択項目

自動（初期設定）	夜間に小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。
標準	一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。
最大	入力された信号を補正せず、そのまま再生します。

オーディオディレイ

設定メニュー → サウンド → オーディオディレイ

接続しているテレビでデジタル処理された映像が、音声よりも遅れて表示されることがあります。このタイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。

選択項目

0ms ～ 500ms	音声出力を遅らせる時間を 5ms 単位で指定します。
自動（初期設定）	映像と音声のずれを自動で調整する。（自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続している場合のみ有効）

HDMI

HDMI 信号や HDMI コントロール機能に関する設定をします。

HDMI コントロール

設定メニュー → HDMI → HDMI コントロール

HDMI コントロール機能（20 ページ）のオン / オフを切り替えます。

選択項目

オフ	HDMI コントロール機能を無効にします。本機の待機時消費電力を低減できます。
オン（初期設定）	HDMI コントロール機能を有効にします。

HDMI 音声出力

この設定は、「HDMI コントロール」が「オフ」の場合のみ設定できます。

設定メニュー → HDMI → HDMI 音声出力

HDMI 入力音声信号を再生する機器を設定します。

選択項目

AMP（初期設定）	入力した音声信号を本機で再生します。
TV	HDMI 出力（ARC）端子に接続したテレビで音声を再生します。 本機では音量を調節できません。テレビで音量を調節してください。

- 「HDMI コントロール」が「オン」の場合は、接続したテレビの設定で音声を出力する機器を選んでください。
- 本機の HDMI 入力端子に入力した HDMI 映像信号は、常に本機の HDMI 出力（ARC）端子へ出力されます。

音声入力端子

設定メニュー → HDMI → 音声入力端子

HDMI 入力を選んだときの音声を、HDMI 入力端子または光デジタル端子から入力するか指定できます。

選択項目
HDMI（初期設定）、光デジタル

ディマー

設定メニュー → ファンクション → ディマー

前面インジケーターの明るさを調節します。

選択項目
－2（消灯）、－1（暗い）（初期設定）、0（明るい）

- 「－2」または「－1」にすると、操作したときのみ明るくなります。

メニュー言語

設定メニュー → ファンクション → メニュー言語

テレビに表示されるメニュー画面の表示言語を設定します。

選択項目

日本語（初期設定）	日本語で表示します。
ENGLISH	英語で表示します。
DEUTSCH	ドイツ語で表示します。
FRANÇAS	フランス語で表示します。
ESPAÑOL	スペイン語で表示します。
ITALIANO	イタリア語で表示します。
NEDERLAND	オランダ語で表示します。
РУССКИЙ	ロシア語で表示します。
SVENSKA	スウェーデン語で表示します。
TÜRK	トルコ語で表示します。

- 設定キーを 3 秒以上押すと、「メニュー言語」を直接表示することができます。
- HDMI コントロール対応のテレビをご使用の場合、設定が自動的に変更されることがあります。

自動スタンバイ

設定メニュー → ファンクション → 自動スタンバイ

自動スタンバイ機能のオン / オフを切り替えます。

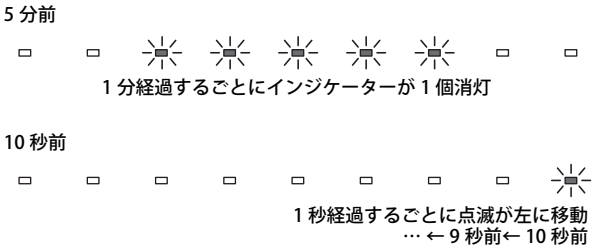
自動スタンバイ機能を有効にすると、本機を使用していないときの電源の切り忘れを防止できます。

選択項目
オフ（初期設定）、オン

「自動スタンバイ」を「オン」に設定した場合、以下のときに自動的に電源を切ります。

- 音声は入力されているが、操作がない状態で 8 時間経過
- HDMI、BLUETOOTH または NET が入力ソースとして選択され、音声入力および操作がない状態で 20 分経過
- HDMI が入力ソースとして選択されているが、HDMI 入力端子に再生機器を接続していない状態で 20 分経過

自動スタンバイ機能により自動的に電源が切られる時間の 5 分前になると、前面のインジケーターがカウントダウンを示します。



- 自動スタンバイのオン / オフは、前面パネルのキー操作でも切り替えられます（62 ページ）。

TV リモコンリピーター

設定メニュー → ファンクション → TV リモコンリピーター

テレビリモコンリピーター機能のオン / オフを切り替えます。

選択項目

オフ（初期設定）	テレビリモコンリピーター機能を無効にします。
オン	テレビリモコンリピーター機能を有効にします。

詳しくは、「本機経由でテレビを操作する（テレビリモコンリピーター機能）」（58 ページ）をご覧ください。

情報表示

本機に入力している音声・映像信号の情報を表示します。

音声

設定メニュー → 情報表示 → 音声

現在入力している音声信号について、以下の情報を表示します。

フォーマット	デジタル音声のフォーマット
チャンネル数	入力信号に含まれているチャンネル数（フロント / サラウンド / LFE（低域効果音））表示例：「3 / 2 / 0.1」→ 入力信号にフロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE あり フロント、サラウンド、LFE 以外のチャンネルが含まれていると、「5.1ch」のように合計のチャンネル数で表示されることがあります。
サンプリング周波数	デジタル入力信号のサンプリング周波数
ビットレート	入力信号の 1 秒あたりのビットレート

- 入力信号によってはサンプリング周波数やビットレートが表示されない場合があります。

映像

設定メニュー → 情報表示 → 映像

現在入力している映像信号について、以下の情報を表示します。

種類	HDMI または DVI
解像度	映像信号の解像度

システム

設定メニュー → 情報表示 → システム

本機のファームウェアのバージョンを表示します。

ネットワーク

本機のネットワーク関連機能を設定します。

- 一部のメニューは、テレビ画面の映像に重ねて表示されません。

ネットワーク情報

設定メニュー → ネットワーク → ネットワーク情報

本機のネットワーク情報を表示します。

- ネットワーク接続の種類（有線 / 無線（Wi-Fi）/ 無線（携帯端末を直接接続））により、表示される項目が異なります。

ステータス	ネットワーク端子の接続状態
接続方法	ネットワークへの接続方法
MC ネットワーク	MusicCast ネットワークの接続状態
SSID	本機が接続しているアクセスポイント
セキュリティー	ネットワークの暗号化方式
MAC アドレス	本機の MAC アドレス（イーサーネット /Wi-Fi）
IP アドレス	本機の IP アドレス
サブネットマスク	サブネットマスク
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレス
DNS サーバー（P）	プライマリー DNS サーバーの IP アドレス
DNS サーバー（S）	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレス
vTuner ID	インターネットラジオ（vTuner）の ID

ネットワーク接続

設定メニュー → ネットワーク → ネットワーク接続

ネットワークへの接続方法を設定します。

選択項目

有線	市販のネットワークケーブルを使って、本機をネットワークに接続する場合に選びます。
無線（Wi-Fi）	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を経由して、本機をネットワークに接続する場合に選びます。
無線（携帯端末を直接接続）	モバイル機器を本機に直接接続する場合に選びます。

IP アドレス

設定メニュー → ネットワーク → IP アドレス

ネットワーク情報（IP アドレスなど）を設定します。

❑ DHCP

DHCP サーバーを使用するかどうかを設定します。

選択項目

オフ	DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定します。詳しくは下記「ネットワークの手動設定」をご覧ください。
オン（初期設定）	DHCP サーバーを使用して、本機のネットワーク情報（IP アドレスなど）を自動的に取得します。

ネットワークの手動設定

1 「DHCP」を「オフ」に切り替える。

2 ▲ / ▼ キーで設定したい項目を選ぶ。

IP アドレス	IP アドレスを設定する。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定する。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー（P）	プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー（S）	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。

3 ◀ / ▶ キーで変更したい位置を選び、▲ / ▼ キーで数値を変更する。

4 決定キーを押す。

MAC アドレスフィルター

設定メニュー → ネットワーク → MAC アドレスフィルター

MAC アドレスを指定して本機を操作できるネットワーク機器を制限します。モバイル端末のアプリで本機を操作する場合は、その機器の MAC アドレスを指定してください。

- AirPlay（45 ページ）や DLNA 対応機器（42 ページ）からの操作は制限されません。

❑ フィルター

MAC アドレスフィルターをオン / オフします。

選択項目

オフ（初期設定）	MAC アドレスフィルターを無効にします。
オン	MAC アドレスフィルターを有効にします。「MAC アドレス 1-10」で指定したネットワーク機器だけが本機を操作できるようになります。

❑ MAC アドレス 1-10

「フィルター」を「オン」に切り替えてから、本機を操作できるネットワーク機器の MAC アドレス（最大 10 個）を以下の手順で指定します。

1 ▲ / ▼ キーで設定したい MAC アドレス番号（1 ～ 10）を選ぶ。

2 ◀ / ▶ キーで変更したい位置を選び、▲ / ▼ キーで数値を変更する。

3 決定キーを押す。

ネットワークスタンバイ

設定メニュー → ネットワーク → ネットワークスタンバイ

ネットワーク機器や *Bluetooth* 機器の操作により、本機の電源を制御する機能（ネットワークスタンバイ）をオン / オフします。

選択項目

オフ	ネットワークスタンバイを無効にします。	
オン（初期設定）	ネットワークスタンバイを有効にします。	モバイル端末にインストールした「MusicCast CONTROLLER」や「HOME THEATER CONTROLLER（WLAN）」アプリで電源を操作できます。
		Bluetooth 機器からは、本機の電源が以下のように連動します。 **電源オン連動** 本機の電源がオフのときに、*Bluetooth* 機器側で本機に接続すると、本機の電源がオンになり、入力が *Bluetooth* に切り替わります。 **電源オフ連動** 本機の電源がオンのときに、*Bluetooth* 機器側で本機の接続を切断すると、本機の電源もオフになります。 （入力が *Bluetooth* のときのみ）

- 「ネットワークスタンバイ」を「オン」に設定すると、「オフ」に比べて電力を消費します。

ネットワーク名

設定メニュー → ネットワーク → ネットワーク名

ネットワークに表示される本機の名称（ネットワーク名）を 15 文字以内で設定します。

1 ◀ / ▶ キーで変更したい位置を選び、▲ / ▼ キーで文字を変更する。



- 以下の文字 / 記号が使えます。
  ( ) [ ] { } < > * ! ? # % & . , : ; _ | / ＼ $ ~ ^ ' " ` 0～9
  @ + - = A～Z a～z

2 戻るキーを押す。

ネットワークアップデート

設定メニュー → ネットワーク → ネットワークアップデート

本機のファームウェアをネットワーク経由で更新します。

アップデート実行

ファームウェアが更新されると、この項目が選べるようになります。詳しくは「本機のファームウェアを更新する」（59 ページ）をご覧ください。

Bluetooth

Bluetooth 接続を設定します。

- 一部のメニューは、テレビ画面の映像に重ねて表示されません。

Bluetooth

設定メニュー → Bluetooth → Bluetooth

Bluetooth 機能のオン / オフを切り替えます。

選択項目

オフ	*Bluetooth* 機能を無効にします。
オン（初期設定）	*Bluetooth* 機能を有効にします。

音声送信

設定メニュー → Bluetooth → 音声送信

Bluetooth スピーカーやヘッドホンに本機から音声を送信します。

選択項目

オフ（初期設定）	音声送信を無効にします。
オン	本機に入力した音声を *Bluetooth* スピーカーやヘッドホンに送信します。

機器検索

設定メニュー → Bluetooth → 機器検索

音声送信する *Bluetooth* スピーカーやヘッドホンを選び、ペアリングや接続を行います。

MAC アドレス

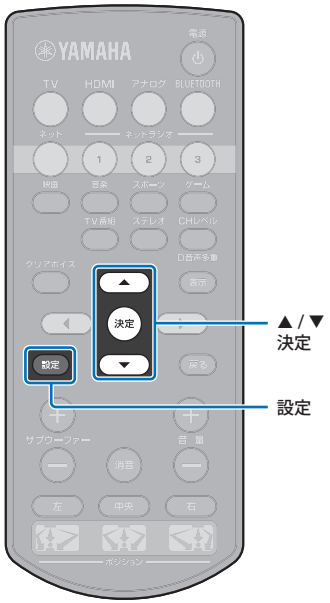
設定メニュー → Bluetooth → MAC アドレス

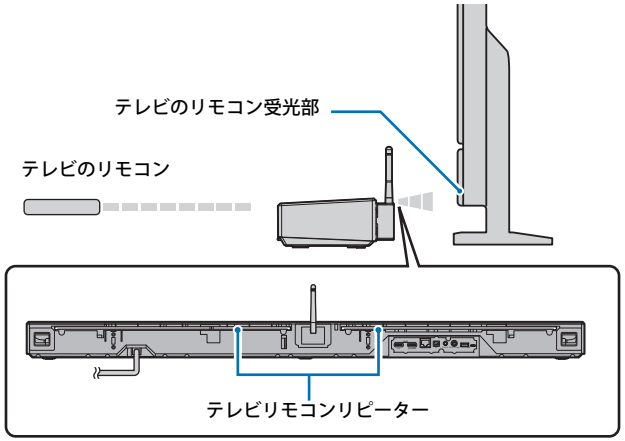
Bluetooth 接続の MAC アドレスを表示します。

本機経由でテレビを操作する（テレビリモコンリピーター機能）

テレビリモコンリピーター機能を使用すると、本機前面のリモコン受光部で受信したテレビリモコン信号を、背面のテレビリモコンリピーターから送信できます。本機でテレビのリモコン受光部が隠れてしまい、テレビを操作しにくい場合などにご利用ください。

- テレビのリモコンが赤外線信号を使用している場合のみ、この機能を利用できます。
- 本機とテレビは 5cm 以上離してください。

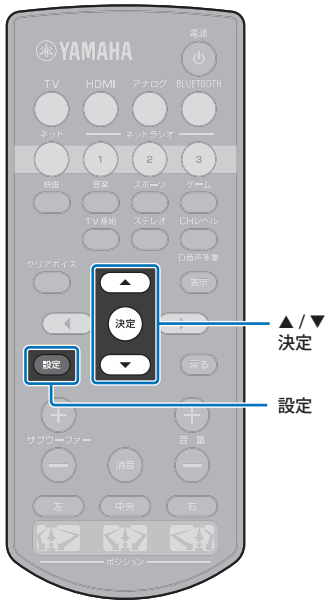




以下の手順にしたがって、テレビリモコンリピーター機能を有効にします。

1. **設定キーを押す。**
   設定メニューが表示されます。
2. **▲/▼ キーで「ファンクション」を選び、決定キーを押す。**
3. **▲/▼ キーで「TV リモコンリピーター」を選び、決定キーを押す。**
4. **▲/▼ キーで「オン」を選び、決定キーを押す。**
5. **設定メニューを終了するには、設定キーを押す。**

本機のファームウェアを更新する



機能の追加や不具合の改善に応じて、新しいファームウェアが提供されることがあります。本機がインターネットに接続されている場合、ネットワークから最新のファームウェアをダウンロードして、ファームウェアを更新できます。

新しいファームウェアが提供されてから、はじめて本機の電源をオンにすると、テレビ画面にファームウェア更新のメッセージが表示され、設定メニューに封筒アイコン（✉）が表示されます（48 ページ）。

ファームウェアの更新には以下の方法があります。

- 本機の設定メニューの「ネットワークアップデート」から更新する
- 更新用ファームウェアを格納した USB メモリを本機に接続して更新する（60 ページ）
- 専用アプリ MusicCast CONTROLLER を使って、モバイル端末から更新する（「MusicCast CONTROLLER」アプリのガイドにしたがってモバイル端末を操作してください。）

注意

- ファームウェア更新中は、本機を操作したり電源コードやネットワークケーブルを抜いたりしないでください。所要時間は約 20 分です（インターネット回線の速度により異なります）。
- インターネット回線の速度が十分に得られない場合や、無線ネットワークに接続している場合など、接続状態によってはファームウェアの更新に失敗することがあります。そのような場合は、時間をおいてアップデートをお試しいただくか、USB メモリーを使ってファームウェアを更新してください（60 ページ）。
- 以下の操作を行うには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。
- ファームウェアに関する詳細は弊社ウェブサイトをご覧ください。

設定メニューの「ネットワークアップデート」から更新する

1 **設定キーを 2 回押す。**

「設定メニュー」が表示されます。

2 **▲/▼ キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。**

3 **▲/▼ キーで「ネットワークアップデート」を選び、決定キーを押す。**

ファームウェアの更新が可能な場合、以下の画面が表示されます。

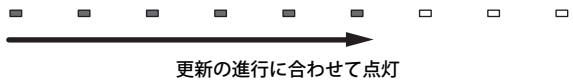


- ファームウェアを更新せずに終了するには設定キーを押します。

4 **決定キーを押す。**

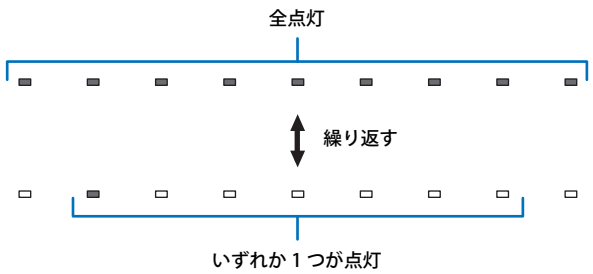
テレビ画面の表示が消え、ファームウェアの更新が始まります。

更新中は前面のインジケーターの点灯で進行状況を示します。



- 複数のアップデートがある場合は、アップデートごとに最初から点灯が始まります。

5 前面のインジケーターが以下のように点灯したら、本機前面の ⏻（電源）キーを押す。



これでファームウェアの更新は完了です。

- ファームウェアの更新に失敗したときは、右端のインジケーター が青で点滅します。電源（⏻）キーを押して本機の電源を入れ直し、手順 1 からやり直してください。それでも更新できない場合は、ネットワーク接続を確認してください。

USB メモリを本機に接続して更新する

弊社ウェブサイトから本機の最新ファームウェアをダウンロードし、USB メモリーデバイスを使って本機のファームウェアを更新します。

詳しくは、ファームウェア更新時に提供される情報を確認してください。

1 USB メモリーに本機のファームウェアを保存する。

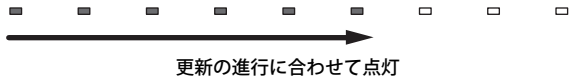
2 本機の電源をオフにする。

3 USB メモリーを本機背面のアップデート専用端子に接続する。

4 本体の VOLUME ー キーを押しながら、本機前面の ⏻（電源）キーを押す。

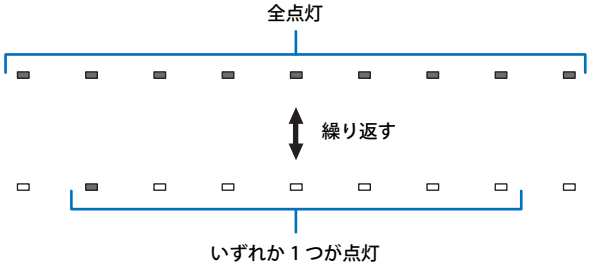
ファームウェアの更新が始まります。

更新中は前面のインジケーターの点灯で進行状況を示します。



- 複数のアップデートがある場合は、アップデートごとに最初から点灯が始まります。

5 前面のインジケーターが以下のように点灯したら、本機前面の ⏻（電源）キーを押す。



これでファームウェアの更新は完了です。

- ファームウェアの更新に失敗したときは、右端のインジケーターが青で点滅します。電源（⏻）キーを押して本機の電源を入れ直し、手順 1 からやり直してください。それでも更新できない場合は、以下のことを確認してください。
  - USB メモリーがアップデート専用端子に正しく差し込まれているか確認する
  - ファームウェア更新時に提供される情報を参照し、更新用のファームウェアが USB メモリーに入っているか確認する
  - ネットワーク接続が正しいか確認する

本機の設定を初期化する

本機の基本設定（ネットワーク関連以外）の初期化と、ネットワーク関連の設定のみの初期化ができます。

本機の基本設定（ネットワーク関連以外）を初期化する

本機の基本設定（ネットワーク関連以外）が初期化されます。

1 **本機の電源をオフにする。**

2 **本機前面の ⏻（電源）キーを 3 秒以上押す。**

初期化が完了すると電源がオンになり、前面のすべてのインジケータが点滅したあと、本機が使用可能な状態になります。



ネットワーク関連の設定を初期化する

以下の設定が初期化されます

- 設定メニューの「ネットワーク」（ネットワークスタンバイのオン / オフ以外）および「Bluetooth」（*Bluetooth* 機能のオン / オフ以外）
  ネットワークスタンバイのオン / オフ、および *Bluetooth* 機能のオン / オフを初期化するには、左記の基本設定の初期化を行ってください。
- ネットラジオ 1-3 の登録
- *Bluetooth* のペアリング情報

- 以下の 2 つの設定を初期化する場合は、左記の「本機の基本設定（ネットワーク関連以外）を初期化する」を行ってください。
  – ネットワークスタンバイのオン / オフ（56 ページ）
  – *Bluetooth* 機能のオン / オフ（57 ページ）

1 **本機の電源をオフにする。**

2 **本機前面の CONNECT キーを押しながら ⏻（電源）キーを押す。**

初期化が完了すると電源がオンになり、前面のすべてのインジケータが点滅したあと、本機が使用可能な状態になります。



- ネットワーク関連の設定を初期化すると、次回電源をオンにしたとき、「Wi-Fi 設定を共有（iOS デバイス）」画面が表示されます（18 ページ）。

付録

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
電源（⏻）キーを押しても電源が入らない（STATUS インジケーターが赤色で点滅）/ すぐに電源が切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。	17
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待ち（約 1 時間程度）、本機の周囲に十分なスペースがあること、本機を布などで覆っていないことを確認して電源を入れなおしてください。	12
	自動スタンバイがオンに設定されていて、以下のいずれかの条件の場合、自動的に電源が切れます。 – 音声入力があり、操作がない状態で 8 時間経過 – HDMI、BLUETOOTH または NET が入力ソースとして選択され、音声入力および操作がない状態で 20 分経過 – HDMI が入力ソースとして選択されているが、HDMI 入力端子に再生機器を接続していない状態で 20 分経過	電源を入れて再生しなおしてください。自動スタンバイ機能を使わない場合は、設定メニューで「自動スタンバイ」を「オフ」にしてください。 自動スタンバイは、前面パネルのキー操作でも切り替えられます。電源オフの状態で INPUT キーを押しながら電源（⏻）キーを押すと、自動スタンバイの設定が切り替わり、本機の電源はオンになります。自動スタンバイがオフに切り替わったときは、前面パネルのインジケーターが数秒間点灯し、オンに切り替わったときは点灯しません。	52
	ネットワークスタンバイモードが有効で、*Bluetooth* 機器との接続が切断された。	*Bluetooth* 機器側で再度本機に接続してください。または電源を入れて、「ネットワークスタンバイ」を「オフ」に設定してください。	56
ファームウェアの更新後、右端のインジケーターが青で点滅している	ファームウェアの更新に失敗しました。	電源（⏻）キーを押して本機の電源を入れ直し、ファームウェアの更新をやり直してください。それでも更新できないときは、正しくネットワークに接続されているか確認してください。 USB メモリーでの更新が失敗した場合は、USB メモリーを端子に正しく接続しているか、本機のファームウェアが USB メモリーに入っているかを確認してください。	59

症状	原因	対策	参照ページ
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	16
	再生する機器が正しく選ばれていない。	入力選択キーで、再生する機器を正しく選んでください。	22
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	22
	消音されている。	消音キーまたは音量（＋ / －）キーを押して消音を解除してください。	22
	本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号の音源を再生してください。または再生機器の設定を変更してください。	72
	「HDMI 音声出力」を「TV」に設定している。	「AMP」に設定してください。	51
	「HDMI コントロール」が「オフ」に設定されている。	ARC（オーディオリターンチャンネル）対応のテレビと本機を HDMI ケーブルのみで接続する場合は、「HDMI コントロール」を「オン」に設定してください。	51
		「HDMI コントロール」を「オフ」にしたまま使うには、本機の TV 端子（光デジタル）とテレビの音声出力端子を光ファイバーケーブルで接続してください。	15
	HDMI コントロール機能を使用しているテレビの音声出力先が、テレビの内蔵スピーカーになっている。	テレビの HDMI に関する設定で、音声出力先をテレビの内蔵スピーカー以外に切り替えてください。	—
特定のチャンネル音声が出ない / はっきり聞こえない	該当チャンネルの音量が絞られている。	該当チャンネルの音量を調節してください。	24、50
	ポジション設定が正しくない。	本機の設置位置に合わせてポジション設定してください。	19
	ステレオ再生している。	サラウンド再生してください。	23
十分なサラウンド効果が得られない	本機と再生機器やテレビをデジタル接続している場合に、再生機器やテレビのデジタル出力設定が有効になっていない。	再生機器やテレビ側の設定を確認してください。	—
	再生機器側で、常に 2 チャンネル（PCM など）で出力するように設定されている	再生機器側の音声出力設定を変更してください。	—
	ポジション設定が正しくない。	本機の設置位置に合わせてポジション設定してください。	19
	音声ビーム経路上に壁がない。	音声ビーム経路上にサウンドリフレクションボードを設置してください。	68
サブウーファーから音声が出ない	サブウーファーの音量が小さい。	サブウーファー（＋）キーを押して音量を上げてください。	22
サブウーファーの低音が小さい	サブウーファーの音量が小さい。	サブウーファー（＋）キーを押して音量を上げてください。	22
	低音域が少ない音源を再生している。	低音域が多く含まれている音源を再生して確認してください。	—
テレビ画面に映像が表示されない	HDMI ケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	15、16
テレビ画面に「このコンテンツは非対応です。HDMI OUT に HDCP2.2 対応機器を接続してください。」というメッセージが表示され、入力ソースを視聴できない	本機の HDMI（ARC）出力端子と接続しているテレビの HDMI 入力端子が HDCP2.2 に対応していない。	テレビの HDCP2.2 対応 HDMI 入力端子に接続してください。	15
本機のメニュー画面が表示されない	テレビの入力切り替えが正しく設定されていない。	テレビの入力を本機にしてください。	18

症状	原因	対策	参照ページ
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機からそれらの機器を離してください。	—
設定した内容が変わってしまう	「HDMI コントロール」が「オン」に設定されているとき、テレビの仕様によっては、チャンネルを変えるなどのテレビの操作で、音場プログラムなどの本機の設定が変更される。	「HDMI コントロール」を「オフ」に設定するか、本機のリモコンで再度設定してください。	51
HDMI コントロール機能が正常に動作しない	「HDMI コントロール」が「オフ」に設定されている。	「オン」に設定してください。	51
	テレビの HDMI コントロール機能が有効になっていない。	テレビ側の設定を確認してください。	—
	規格の制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
「オーディオディレイ」を「自動」に設定しても効果が感じられない	テレビがオーディオディレイの自動補正機能に対応していない。	「オーディオディレイ」の遅延時間を手動で設定してください。	50

Bluetooth

症状	原因	対策	参照ページ
本機と *Bluetooth* 機器がペアリングできない			
受信 / 送信時	「Bluetooth」が「オフ」になっている。	「オン」に設定してください。	57
	Bluetooth 機器が A2DP に対応していない。	A2DP に対応した機器とペアリングしてください。	71
	本機と *Bluetooth* 機器の距離が離れすぎている。	本機と *Bluetooth* 機器の距離を 10m 以内にしてペアリングしてください。	27、29
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。	—
	別の *Bluetooth* 機器がすでに接続されている。	接続中の機器をいったん切断してから、ペアリングしてください。	28
受信時	本機の入力が *Bluetooth* 以外になっている。	入力を *Bluetooth* にしてください。	22
	Bluetooth アダプターなどの機器でパスキーが「0000」以外になっている。	パスキーが「 0000 」の機器をお使いください。	27
	「音声送信」が「オン」になっている。	「オフ」に設定してください。	57
送信時	「音声送信」が「オフ」になっている。	「オン」に設定してください。	57
***Bluetooth* 接続ができない**			
受信 / 送信時	「Bluetooth」が「オフ」になっている。	「オン」に設定してください。	57
	別の *Bluetooth* 機器がすでに接続されている。	本機は複数の *Bluetooth* 機器とは接続できません。現在接続中の *Bluetooth* 機器をいったん切断してから、接続し直してください。	28
	20 台以上の *Bluetooth* 機器とペアリングしたために、ペアリング情報が削除された。	再度ペアリングしてください。 本機は受信 / 送信合わせて最大 20 台の *Bluetooth* 機器とペアリングが可能ですが、21 台目を登録すると、接続した日時がもっとも古い機器のペアリング情報が削除されます。	27
送信時	AirPlay での再生中に接続しようとした。	AirPlay の再生を終了してから接続し直してください。	30

症状	原因	対策	参照ページ
音が出ない、または音が途切れる			
受信 / 送信時	*Bluetooth* 機器との接続が切断された。	接続し直してください 。	28
	本機と *Bluetooth* 機器の距離が離れすぎている。	*Bluetooth* 機器を本機から 10m 以内に近づけてください。	27、29
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。	—
	Bluetooth 機器の *Bluetooth* 機能がオフになっている。	*Bluetooth* 機器の *Bluetooth* 機能をオンにしてください。	—
	Bluetooth 機器の音量が最小になっている。	*Bluetooth* 機器の音量を上げてください。	—
受信時	*Bluetooth* 機器が *Bluetooth* 信号を本機に送っていない。	*Bluetooth* 機器の *Bluetooth* 機能が正しく設定されているか確認してください。	—
	Bluetooth 機器側での再生操作をしていない。	*Bluetooth* 機器側で再生してください。	—
送信時	送信する音声を再生していない。	入力選択キーで選んだ機器を再生してください。	30

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで本機を操作できない	リモコン操作範囲からはずれている。	本体のリモコン受光部から 6m 以内、角度 30° 以内の範囲で操作してください。	4
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて新品に交換してください。	4
テレビリモコンリピーター機能を使ってテレビを操作できない	テレビリモコンリピーター機能が無効になっている。	テレビリモコンリピーター機能を有効にしてください。	58
	赤外線信号以外のリモコンを使用している。（赤外線リモコンでも対応していない場合があります。）	この場合はテレビリモコンリピーター機能を利用できません。テレビのリモコン受光部が隠れないように本機を移動し、テレビのリモコンでテレビを直接操作してください。	—
	本機とテレビの距離が遠すぎる、または近すぎる。	本機とテレビの距離を 5cm 以上離してください。	12
	本機の電源コードが抜けている。	電源コードをコンセントに接続してください。	17
	本機とテレビの間にコードなどの障害物がある。	障害物を取り除いてください。	—

ネットワーク

症状	原因	対策	参照ページ
ネットワーク機能を使用できない	ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていない。	ルーターの DHCP サーバー機能を有効にしてください。また、本機の設定メニューで「DHCP」を「オン」に設定してください。DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する場合は、本機の IP アドレスが他のネットワーク機器と重複しないようにしてください。	55
「無線（Wi-Fi）」の設定で「接続できませんでした」と表示され、無線 LAN ルーター（アクセスポイント）と接続できない	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の MAC アドレスフィルターが有効になっている。	MAC アドレスフィルターが有効になっている場合は接続できません。無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の設定を確認し、別の接続方法を試してください。	31、32
「無線（Wi-Fi）」の WPS 機能（「WPS ボタン」、「PIN コード」）や「アクセスポイント検索」を使った設定で、「接続できませんでした」と表示され、無線 LAN ルーター（アクセスポイント）と接続できない	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の ESS-ID ステルス機能（SSID の隠蔽）が有効に設定されている。	ESS-ID ステルス機能（SSID の隠蔽）が有効に設定されている場合は接続できません。無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の設定を確認し、別の接続方法を試してください。	34、35、39
「無線（Wi-Fi）」の WPS 機能（「WPS ボタン」、「PIN コード」）を使った設定で「接続できませんでした」と表示され、無線 LAN ルーター（アクセスポイント）と接続できない	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）が暗号化方式に WEP を使用している。	WPS 機能では接続できません。別の接続方法を試してください。	34、39
再生が停止してしまう（連続して再生できない）	本機が再生できないファイルが存在する。	再生するフォルダーには、本機が再生できないファイル（画像ファイルや隠しファイルなどを含む）を入れないでください。	—
パソコン（サーバー）が検出されない	メディアの共有設定が正しくない。	本機がパソコン（サーバー）のフォルダーにアクセスできるように、メディアの共有設定を変更してください。	42
	セキュリティソフトなどの設定により、パソコン（サーバー）へのアクセスが制限されている。	セキュリティソフトの設定をご確認ください。	—
	本機とパソコン（サーバー）が同じネットワークに接続されていない。	ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、同じネットワークに接続してください。	—
	MAC アドレスフィルターが有効になっている。	設定メニューの「MAC アドレスフィルター」で、MAC アドレスフィルターを無効にするか、使用するパソコンの MAC アドレスを指定してください。	55
パソコン（サーバー）のファイルが表示（再生）されない	本機またはパソコン（サーバー）が非対応のファイル形式を使用している。	本機およびパソコン（サーバー）が対応しているファイル形式を使用してください。	42

症状	原因	対策	参照ページ
インターネットラジオを再生できない	選択したラジオ局のサービスが現在停止している。	ラジオ局側のネットワークエラーにより受信できない場合や、サービスを休止している場合があります。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。	—
	選択したインターネットラジオ局が無音を放送している。	時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合は受信できていても音はでません。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。	—
	ルーターなどネットワーク機器のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。	ファイアウォールの設定をご確認ください。なお、インターネットラジオは各ラジオ局指定のポート経由でのみ再生できます。ポート番号はラジオ局により異なります。	—
モバイル端末の専用アプリで本機が検出されない	MAC アドレスフィルターが有効になっている。	設定メニューの「MAC アドレスフィルター」で、MAC アドレスフィルターを無効にするか、使用するモバイル端末の MAC アドレスを指定してください。	55
	本機とモバイル端末が同じネットワークに接続されていない。	ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、同じネットワークに接続してください。	—
ネットワーク経由によるファームウェアの更新に失敗した	ネットワークの接続状態がよくない。	しばらく経ってから再度更新をお試しください。または USB メモリーを使ってファームウェアを更新してください。	59
AirPlay 使用時、iPod から本機を認識できない	（同じアクセスポイントの）別々の SSID に接続している。	同じ SSID に接続してください。	—
モバイル端末にインストールしたアプリが本機を認識しない			
無線 LAN ルーター（アクセスポイント）経由でインターネットに接続できない	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の電源が切れている。	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の電源を入れてください。	—
	本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）との距離が離れすぎている。	本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を近づけて設置してください。	—
	本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の間に障害物がある。	本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の間に障害物がない場所に設置してください。	—
無線ネットワークが見つからない	電子レンジやその他の無線機器からの電磁波により、無線通信が妨害されている。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。	—
	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）のファイアウォール設定をご確認ください。	—

サラウンド感が得られないときは

本機は音声をビーム化し、壁面に反射させることでサラウンド音響を実現しています。
設置した部屋の状態によってはビームが視聴位置の方向に反射されず、音量のバランスや音の方向が不自然に聴こえることがあります。

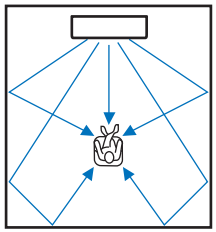


図 1：理想的な反射状態

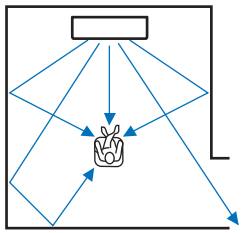


図 2：壁がなく、サラウンド右チャンネルの音声が反射されない状態

サラウンド右チャンネルの音が小さくなったり、理想的な位置より前方から音が聴こえたりします。

上記の図 2 のようにビームが視聴位置の方向に反射されない場合、別売の「サウンドリフレクションボード（YRB-100）」を設置することで、壁がない場所でもサラウンド感を向上させることができます。

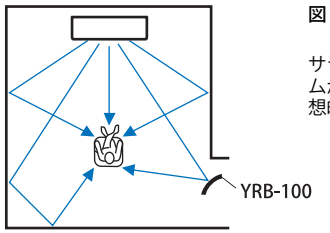


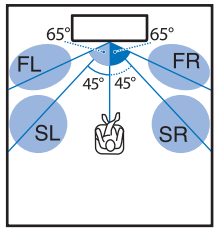
図 3：サウンドリフレクションボードを設置した状態

サラウンド右チャンネルのビームが壁面に正しく反射されて理想的な反射状態となります。

YRB-100 設置のポイント

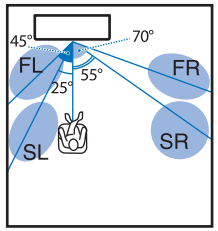
本機は「ポジション設定」（19 ページ）により、下図のようにビームを出力します。

YRB-100 を設置するときは、下図を目安に、できるだけビームの出力方向に近い位置に設置してください。
図の ● の位置が理想的です。

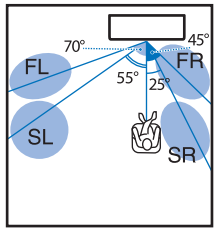


ポジション：中央

FL: フロント左
FR: フロント右
SL: サラウンド左
SR: サラウンド右



ポジション：左



ポジション：右

- 設置後は、YRB-100 取扱説明書「設置と調整」の手順に従って、YRB-100 の高さと左右の方向を調整してください。その際、設定メニューの「チャンネルレベル」を使ってテストトーンを出力すると調整しやすくなります（50 ページ）。
- YRB-100 は視聴位置に近い場所に設置すると、よりはっきりした定位感が得られます。

ご注意

- **本機はビーム角度の自動調整機能を搭載していません。そのため、YRB-100 取扱説明書に記載された「ビーム調整をする（1 回目）」、「ビーム調整をする（2 回目）」の手順は省いてください。**

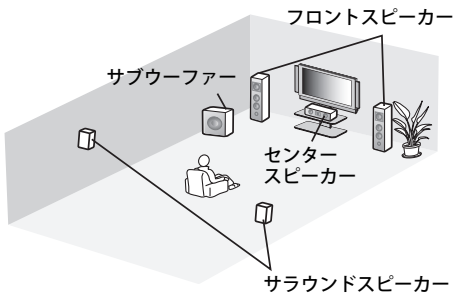
サラウンドの基礎知識

サラウンドとは？

映画館で体験する、音に包み込まれるような感覚。これは観客のまわりをたくさんのスピーカーで取り囲み、それぞれの方向から音を出すことによって作り出しています。このように、前方のスピーカーだけではなく、聴き手の側方や後方にもスピーカーを設置し、よりリアルな音の臨場感を再現する技術を「サラウンド」技術と呼びます。

音の方向や音質を正確に再現するためには、スピーカーそれぞれに別の音を出す必要があります。これらを「チャンネル」と呼びます。家庭用のサラウンドシステムでは、以下のような 5 つのスピーカーとサブウーファーにより、サラウンドを実現するシステム（5.1 チャンネルスピーカーシステム）が一般的です。

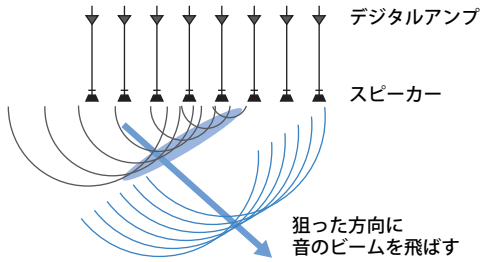
標準的な 5.1 チャンネルスピーカーシステム



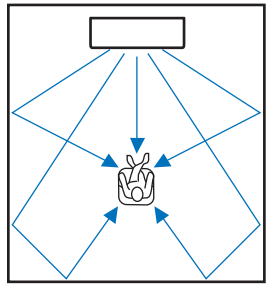
上記のように、たくさんのスピーカーを設置することで音の臨場感を再現することができますが、家庭のリビングルームにたくさんのスピーカーを設置するのは大変です。そこで、本機は「デジタルサウンドプロジェクター」技術を使用し、スリムなセンターユニットとサブウーファーだけでリアルなサラウンドを実現しました。

デジタルサウンドプロジェクターとは？

デジタルサウンドプロジェクターは、均等に配列された小口径のスピーカーを個別に制御し、適切に処理した音声信号を各スピーカーから出力して合成することにより、強い指向性を持った音（音声ビーム）を出力します。



強い指向性を持った音はかたい壁に当たると反射します。デジタルサウンドプロジェクターはフロント（左 / 右）、センター、サラウンド（左 / 右）の 5 チャンネル分の音声ビームを、壁面の反射を利用して聴き手にとって適切な方向から音が届くように出力することで、側面や背面にスピーカーを置かずにサラウンドを実現する技術です。



ヤマハの音声技術

本機には他にもヤマハの優れた音声技術を活かした機能を多数搭載しています。

ミュージックエンハンサー

携帯音楽プレーヤーや PC などで使用される圧縮オーディオフォーマット（MP3、AAC など）で不足しがちな高音域と低音域を拡張・強調する技術です。これにより圧縮音声をより音楽的にダイナミックにお楽しみいただけます。

本機では、*Bluetooth* 機器の音声を入力すると、ミュージックエンハンサーが自動的に作動します。

シネマ DSP

ヤマハが所有する豊富な音場の実測データに基づく音場技術を応用し、音のスケールや奥行き、音量感を補正することで、ご家庭で映画館のような臨場感あふれる視聴体験を実現する技術です。

クリアボイス

BGM や効果音などの背景となる音の音質はそのままに、セリフやナレーションなどの人の声をはっきりと聞き取りやすくする技術です。ヤマハの音声技術により、人の声の特徴を構成する音質特性を強調し、音量感を増加させます。

用語 / 技術解説

音声 / 映像に関する用語

サンプリング周波数と量子化ビット数
アナログ音声信号をデジタル信号化する際の情報量を表す数値です。たとえば、48kHz / 24bit などのように表現されます。

- **サンプリング周波数**
  1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数を示します。この数値が大きいほど再生可能な音域が広がります。
- **量子化ビット数**
  音の大きさを数値化するときのきめ細かさを示します。この数値が大きいほど音の強弱変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）
MPEG-2 オーディオ規格の一つで、モノラル音声から 5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮できる音声フォーマットです。BS / 地上波デジタル放送で採用されています。

Deep Color
HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10 / 12 / 16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上します。

Dolby Digital（ドルビーデジタル）
ドルビーラボラトリーズにより開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

Dolby Pro Logic II（ドルビープロロジック II）
2 チャンネルで記録された音声信号を 5 チャンネル信号に変換する技術です。

DTS デジタルサラウンド
DTS 社により開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

FLAC（Free Lossless Audio Codec）
音声圧縮方式の一つで、ロスレス（可逆型）圧縮方式を採用しています。圧縮率では非可逆圧縮方式フォーマットには劣るものの、音質の劣化がないため、高品質の音声を楽しめます。

HDMI
世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、デジタルインターフェースです。デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。また、著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しています。詳しい情報については、"http://www.hdmi.org" を参照してください。

MP3
MPEG 圧縮技術を使用した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/10 に圧縮できると言われています。

MPEG-4 AAC
MPEG-4 オーディオ規格の一つです。音質を保ったまま、データ量を大幅に圧縮することができます。携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高音質が求められる機器や、インターネット上のコンテンツ配信などにも利用されています。

PCM（パルス・コード・モジュレーション）
アナログ音声信号をデジタル音声信号に記録・変換・伝送する方式で、すべてのデジタル音声信号方式の基礎となる技術です。また非圧縮音声フォーマットとして、CD をはじめとして BD（ブルーレイディスク）などさまざまなコンテンツで採用されており、リニア PCM とも呼ばれています。

WAV
Windows 標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は PCM データ（非圧縮）が使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

WMA（Windows Media Audio）
Microsoft 社が開発した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/20 に圧縮できると言われています。

x.v.Color
HDMI がサポートしている映像技術です。色空間規格の 1 つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。

ネットワークに関する用語

SSID（Service Set Identifier）
無線ネットワークのアクセスポイントを特定するための名前です。

Wi-Fi
無線電波による電子機器間でのデータ通信やインターネット接続を可能にする技術です。ケーブル接続の煩雑さがないのが利点です。Wi-Fi Alliance の互換性テストをクリアした製品のみに「Wi-Fi Certified」ロゴが付与されます。

WPS（Wi-Fi Protected Setup）
無線ネットワークを簡単に設定するための、Wi-Fi Alliance によって策定された規格です。

主な仕様

項目		仕様
アンプ部	実用最大出力 （非同時駆動、JEITA）	アレイスピーカー　2.5Wx8
		サブウーファー　30Wx2
アレイスピーカー部	型式	密閉型
	スピーカユニット	フルレンジ 2.8cm　コーン防磁型 x8
	再生周波数帯域	500Hz ～ 22kHz
	インピーダンス	4Ω
サブウーファー部	型式	バスレフ
	スピーカユニット	8.5cm　コーン非防磁型 x2
	再生周波数帯域	50Hz ～ 500Hz
	インピーダンス	6Ω
デコーダー部	対応音声信号	PCM (5.1ch) Dolby Digital DTS Digital Surround AAC (5.1ch まで)
入力端子	HDMI	1（HDMI 入力）
	光デジタル	1（TV）
	アナログ （3.5mm ミニ / ステレオ）	1（アナログ）
出力端子	HDMI	1（HDMI 出力（ARC））
	アナログ（RCA/ モノラル）	1（サブウーファー出力）
その他の端子	ネットワーク端子	1（100BASE-T、10BASE-T）
	アップデート専用端子	1
ネットワーク		DLNA ver1.5 対応 AirPlay 対応 インターネットラジオ radiko.jp

無線ネットワーク （Wi-Fi）	無線 LAN 規格	IEEE802.11b/g/n
	使用周波数帯域	2.4GHz
	WPS （Wi-Fi Protected Setup）	プッシュボタン式 PIN コード式
	対応セキュリティ	WEP WPA2-PSK（AES） Mixed Mode
モバイル機器の直接接続対応		ワイヤレスダイレクト
Bluetooth	*Bluetooth* バージョン	Ver2.1+EDR
	対応プロファイル	A2DP、AVRCP
	対応コーデック	受信：SBC、MPEG-4 AAC 送信：SBC
	無線出力	*Bluetooth* Class2
	最大通信距離	10m（障害物が無いこと）
	対応コンテンツ保護	SCMS-T 方式（受信）
総合	電源電圧	AC 100V、50/60Hz
	消費電力	25W
	待機消費電力	• HDMI コントロール　オフ、 ネットワークスタンバイ　オフ時 ..... 0.4W • HDMI コントロール　オン、 ネットワークスタンバイ　オフ時 ..... 1.5W • HDMI コントロール　オフ、 ネットワークスタンバイ　オン時 有線 /Wi-Fi/ ワイヤレスダイレクト / Bluetooth .....1.9/1.8/2.0/1.9W • HDMI コントロール　オン、 ネットワークスタンバイ　オン時 3.0W
	寸法（幅 x 高さ x 奥行き）	アンテナを含む：1000 x 134 x 152mm アンテナを含まない：1000 x 65 x 130mm
	質量	4.7kg

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

対応する信号

HDMI

❑ 本機が受信可能な音声信号

音声フォーマット	詳細	主なディスク
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32 ～ 192kHz、16 / 20 / 24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	6ch、32 ～ 192kHz、16 / 20 / 24bit	DVD-Audio、BD（ブルーレイディスク）、HD DVD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video

- 本機へ接続する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- お使いの DVD プレーヤーによっては、コピープロテクトがかかった DVD オーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機は HDCP 非対応の、HDMI や DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器や DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

❑ 本機が伝送可能な映像信号

以下の映像信号に対応しています。

- Deep Color
- x.v.Color
- 3D 映像信号

以下の解像度に対応しています。

- VGA
- 480i / 60Hz
- 480p / 60Hz
- 576i / 50Hz
- 576p / 50Hz
- 720p / 60Hz、50Hz
- 1080i / 60Hz、50Hz
- 1080p / 60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 4K / 60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz

- 接続したテレビの性能により、伝送する映像信号の解像度などが変わります。

デジタル音声（光）

音声フォーマット	詳細	主なディスク
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32 ～ 96kHz、16 / 20 / 24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
ビットストリーム	ドルビーデジタル、DTS、AAC	DVD-Video

本機の無線方式について

無線ネットワーク（Wi-Fi）



「2.4」 2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「DS/OF」 変調方式は DS-SS および OFDM 方式
「4」 想定干渉距離が 40 m 以内
▬ ▬ ▬ 全帯域を回避可能

（*Bluetooth*）



「2.4」 2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「FH」 変調方式は周波数ホッピング（FH-SS）方式
「1」 想定干渉距離が 10 m 以内
▬:▬:▬ 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。

2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

CINEMA DSP

「シネマ DSP」「CINEMA DSP」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

DOLBY AUDIO

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

dts Digital Surround

DTS の特許に関しては http://patents.dts.com をご覧ください。本製品は DTS Licensing Limited のライセンスに基づき製造しています。

DTS、そのシンボルマークおよび DTS とそのシンボルマークの組み合せは、DTS 社の登録商標です。DTS Digital Surround は DTS, Inc. の商標です。© DTS, Inc. All Rights Reserved.

HDMI

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color

「x.v.Color」はソニー株式会社の商標です。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。

Bluetooth®

Bluetooth® およびロゴは *Bluetooth* SIG の登録商標であり、ヤマハ株式会社はライセンスに基づき使用しています。

***Bluetooth* について**

Bluetooth とは、無許可で使用可能な 2.4 GHz 帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

***Bluetooth* 通信の取り扱いについて**

- *Bluetooth* 対応機器が使用する 2.4 GHz 帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。*Bluetooth* 対応機器は同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本書はすべての *Bluetooth* 対応機器との無線接続を保証するものではありません。

iTunes、AirPlay、iPad、iPhone、iPod、iPod touch は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。iPhone 商標は、アイホン株式会社 のライセンスに基づき使用されています。

MusicCast

MusicCast はヤマハ株式会社の登録商標です。

dlna CERTIFIED™

DLNA ™ および DLNA CERTIFIED ™ はデジタルリビングネットワークアライアンスの登録商標です。無断使用は固く禁じられています。

Windows ™

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Internet Explorer、Windows Media Audio、Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

Android ™

Android は、Google Inc. の商標または登録商標です。

Wi Fi CERTIFIED　Wi-Fi PROTECTED SETUP

Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。
Wi-Fi Protected Setup のマークは Wi-Fi Alliance の認証マークです。
Wi-Fi、Wi-Fi Alliance、Wi-Fi CERTIFIED、Wi-Fi Protected Setup、WPA、WPA2 は Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。

「ブルーレイ ™」および「ブルーレイディスク ™」はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。

radiko.jp IP Simulcast Radio

ラジコ /radiko および radiko ロゴは株式会社 radiko の登録商標です。

GPL/LGPL について

本製品は、GPL/LGPL ライセンスが適用されたオープンソースソフトウェアのコードを一部に使用しています。
お客様は GPL/LGPL ライセンスの条件に従い、これらのソフトウェアのソースコードを入手、改変、再配布する権利があります。
GPL/LGPL ライセンスの適用を受けるソフトウェアの概要、ソースコードの入手、GPL/LGPL ライセンスの内容につきましては、以下の弊社ウェブサイトをご覧ください。
http://download.yamaha.com/sourcecodes/musiccast/

***Bluetooth* プロトコルスタック (Blue SDK)**

© 1999-2014 OpenSynergy GmbH
All rights reserved. All unpublished rights reserved.

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



「ご注意ください」という注意喚起を示します。



「〜しないでください」という「禁止」を示します。



「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする**
- **異常に高温になる。**
- **内部に水や異物が混入した。**
- **煙が出る。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。● 加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。● 無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ず AC100V（50 / 60Hz）の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



付属の電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。



電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。



放熱のため本機を設置する際には：
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **あおむけや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。（左右 5cm、上 5cm、背面 5cm 以上のスペースを確保する。）**

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



医療機関の屋内など医療機器の近くで使用しない。
電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。



心臓ペースメーカーや除細動器などの装着部分から 22 cm 以上離して使用する。
ペースメーカーや除細動器に影響を与え重大事故につながる場合があります。



十分な耐荷重強度のある、水平で安定した場所に設置する。
傾斜面や、水平でないところ、カーペット、畳などの安定しない面や変形する面などに設置しないでください。

使用上の注意



放熱用の通風孔から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠注意

電源 / 電源コード


プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。


ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。


禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。


必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。


禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。


必ず実行

本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。
⏻ キーで電源をオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

電池


必ず実行

電池は極性表示（プラス＋とマイナス－）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

電池は幼児の手の届かない所に保管する。
口に入れたりすると危険です。


禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。


必ず実行

リモコンの操作範囲がせまくなったときは、すべての乾電池を新しいものに交換する。
古い乾電池を使用していると、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外し、自治体の条例、または取り決めに従って廃棄する。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

新しい乾電池を入れる前に、電池ケース内をきれいにふく。
異物が入ると、火災や故障の原因になります。

設置


禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。


禁止

あおむけや横倒しには設置しない。
故障やけがの原因となることがあります。


禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。


禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。


必ず実行

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。
突然大きな音が出たり、感電したりすることがあります。


必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害を与えるおそれがあります。また、本機のサブウーファーは非防磁のスピーカーを使用しています。他の機器や磁気記憶装置に障害を与えるおそれがあります。


必ず実行

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。
突然大きな音が出たり、感電することがあります。

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意



再生を始める前には、本機の音量（ボリューム）を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。



音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。
説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因になります。



業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。



小さな部品は幼児の手の届かないところに保管する。
飲み込んだりすると危険です。

リモコン



水やお茶などの液体をこぼさない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。
故障の原因になります。



落としたり、強い衝撃を与えたりしない。
故障の原因になります。



下記のような場所に置かない。
- **風呂場の近くなど、湿度が高いところ**
- **暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ**
- **極端に寒いところ**
- **ほこりの多いところ**

火災や故障の原因になります。

お手入れ



お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。



薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

機器を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届く状態でご使用ください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりするのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

本製品は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。

YSP-1600 の製品ラベルは本体の底面に掲示してあります。

索引

数字

2 チャンネル（ステレオ再生） 23
3D 映像 15
4K 映像 15
5.1 チャンネル 69

A

AAC 70
AirPlay 45
ARC 15

B

Bluetooth 26
Bluetooth（受信） 27
Bluetooth（送信） 29
Bluetooth 機能オン / オフ 57

D

Deep Color 70
DHCP サーバー 31、55
DLNA サーバー 42
DNS サーバー（P） 54、55
DNS サーバー（S） 54、55
Dolby Digital 70
Dolby Pro Logic II 70
DTS デジタルサラウンド 70
D 音声多重キー 25

E

ESS-ID ステルス機能 34

H

HDCP2.2 15
HDMI 70
HDMI 音声出力 51
HDMI ケーブル 15、16
HDMI コントロール 20、51、53

I

iPod 再生（AirPlay） 45
IP アドレス 54、55
iTunes 再生（AirPlay） 45

M

MAC アドレス 54
MAC アドレスフィルター 31、55
MP3 70
MPEG-4 AAC 70

P

PCM 70
PIN コード方式 39

R

radiko.jp 44

S

SSID 54、70

V

vTuner 43
vTuner ID 54

W

Wi-Fi 70
Wi-Fi 設定を共有（iOS デバイス） 18、33
WPS 70
WPS ボタン方式 34

X

x.v.Color 70

あ

明るさの調節（インジケーター） 52
アクセスポイント検索 35
アプリ HOME THEATER CONTROLLER (WLAN) 6
アプリ MusicCast CONTROLLER 6
暗号化方式 34、37、39、40
アンテナ 9、13

い

インジケーター 7、8
インターネットラジオ放送 43

え

映像信号情報 53

お

オーディオリターンチャンネル（ARC） 15
おまかせサラウンド機能 20
音声情報（インジケーター） 24
音声信号情報 53
音声入力端子（HDMI 入力時） 51
音量 22
音量バランス 24、50

か

壁掛け 14

く

クリアボイス 25

さ

サブウーファーの音量 22、24
サブネット 31
サブネットマスク 54、55
サラウンド効果 19
サラウンドモード 23

サンプリング周波数　53、70

し

自動スタンバイ　52
情報表示（音声 / 映像 / ファームウェアバージョン）　53
初期化　61

す

ステレオ再生　23
ずれ（映像と音声）　50

せ

セキュリティー　54
セキュリティーキー　38、40
セキュリティソフト　31
設定メニュー　48

た

ダイナミックレンジ　50

ち

チャンネルレベル　50

て

テスト音　50
デフォルトゲートウェイ　54、55
テレビ　18、20、22
テレビリモコンリピーター　58
電源コード　9、17

に

二カ国語放送　25

ね

ネットワーク情報　54
ネットワークスタンバイ　56
ネットワーク名　56

ふ

ファームウェアの更新　56、59
ファームウェアバージョン　53
ファイルフォーマット（パソコン / サーバー）　42
副音声　25

へ

ペアリング　27、29

ほ

ポジション設定　19

ま

マニュアル設定　37

み

ミュージックエンハンサー　69

む

無線（携帯端末を直接接続）　40
無線ネットワーク　32

め

メディア共有設定　42
メニュー画面　18
メニュー言語　52

も

モバイル端末の曲　47

ゆ

有線ネットワーク　17、31

り

リフレクションボード　68
リモコン　4、10
リモコン受光部　7
量子化ビット数　70

わ

ワイヤレスダイレクト　40

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通）0570-011-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通）0570-012-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ニッセイビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● **保証期間**
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**

技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

© 2015 Yamaha Corporation

ヤマハ株式会社
Printed in Indonesia ZR73410-3W